琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係　日本政府援助総合訓練所設置（覚書）の締結

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43573

総理府特連局との協議（覚書案の作成）

アメリカ局長
参事官
北米オー課長

秘
無期限

1

沖縄職業訓練所の設置について。
44.2.15. 米北.

総理府特連局中高課長補佐は、15日、
(援助業務課)
佐藤を来訪、別紙案を手交の上、労働省としては
予算上人員がとれたこともあり、本件職業訓練所
を雇用促進事業団の直接運営の下におく
こととしたいとの強い意向を有しおる旨付言
し、今後の取り進め方についての当方の見解を
求め越した。

佐藤よりとりあえずの私見として、本件は(イ)
諮問委員会の勧告(18号)及び44年度援助計画(沖縄府)に
関するオノフ国協議委員会における合意等を
通じ米側のう解もとれていること。及び(ロ)
職業訓練所の性格からみて、るくに、日米間で

GA-6 外務省

10970

2

その設置、機能等につき、新らたに合意する
必要があるとも考えられないことの2点から
判断し、日本政府事務所として、米国民政府
及び琉球政府と協議せしめれば十分
と考える旨述べ、この方法によることにつき
当方部内で検討の上、在京米国大使館とも
協議してみたいので本件計画概要に関する
資料を得たき旨要望しおいた。(先方も
労働省と協議の上、来週早々資料を送付
越す旨約した。)

GA-6 外務省

沖縄職業訓練所の設置運営について（案）

（44.2.10 職業訓練局）

1. 失業保険の福祉施設として設置する。

失業保険法（昭和22年法律第146号）第27条の2及び雇用促進事業団法（昭和36年法律第116号）第19条第1項第11号の規定に基づき被保険者及び被保険者であった者の福祉の増進を図るため必要な施設として、雇用促進事業団が沖縄に職業訓練所を設置する。

（参考）

本土相当給付受給者の受給資格決定状況

昭和42年7月～43年11月受給資格決定件数　1291件

昭和43年11月現在受給者実人員　233人

2. 施政権の及ばない地域に国内法に基づいて施設を設置することができるか。

失業保険法の目的に合致するものであり、かつ、琉球政府側に問題がなければ差し支えない。琉球政府からは日本政府に対し職業訓練所設置について協力が要請されているほか、日米琉諮問委員会

（琉球列島米民政府高等弁務官の諮問機関）から高等弁務官に対し、昭和43年9月30日付け勧告第18号により、沖縄に職業訓練所を設置する必要があり、またその設置のために日本政府から提供される協力について便宜を図るよう勧告している。

また、昭和44年1月13日付け、日米協議委員会第17回会合において、米側より日本側に対し沖縄援助計画の一環として職業訓練所の建設について要望があり、日本側はこれに対し雇用促進事業団の昭和44年度事業計画の一環として実施する旨付言し、米側もこれを了承している。

（参考）

(1) 職業訓練所設置の根拠規定を、雇用促進事業団法第19条第1項第1号の規定による職業訓練法上の公共職業訓練とした場合、労働大臣の定める計画、職業訓練基準等に準拠して運営する必要を生じ、これが琉球政府の施政権との関連で問題を生ずる点を考慮し、雇用促進事業団法第19条第1項第11号の規定に基づく施設としたものである。

(2) 失業保険金の給付について、「沖縄居住者等に対する失業保険に関する特別措置法」(昭和42年法律第37号)が制定されているが、施設の設置について特別の法律を必要としない理由。

失業保険金受給資格者が保険金を受給するためには、失業保険法第16条第1項の規定に基づき、公共職業安定所に出頭し、求職の申込をした上、失業の認定を受けなければならないこととされているので、沖縄居住者に対して失業保険金を支給することは事実上不可能である。施設に関する限りこのような制約はない。

3 施設の運営管理

雇用促進事業団が直接運営する。

なお、沖縄に当該職業訓練所の業務を適確に遂行するに足る能力を有する団体が設置された場合には当該団体に運営を委託する。

校長1名、3教科6名、事務員数名 計10名(将来30名程度)

PROPOSED ECONOMIC ASSISTANCE PROGRAM FROM THE GOVERNMENT OF JAPAN TO THE RYUKYU ISLANDS
FOR JAPAN FISCAL YEAR 1969 (INCLUDING SOME AMOUNT TO BE APPROPRIATED IN JFY 1970)

SUMMARY

Project	US amount*	GOJ amount
Grand Total	$56,905,486	44,580,619 (35%) 28%
(Economic Development)	7,968,556	5,225,622
Agricultural Land Development	590,856	351,697 subsidy 80%
Agricultural Facilities	466,372	208,333
Roads Improvement	876,000	644,795
Fishing Port Facilities	2,740,725	2,865,653
Forestry Development	318,958	233,825
Mountain Conservation and Flood Control	191,256	142,231
Retaining Walls	142,400	87,063
Natural Resources Development	210,000	49,500
Airfield Improvement	1,433,811	555,556
Urban Planning Program	746,728	86,969
Land Investigation	251,450	0

(* Excluding Trust Fund Program)

Project	US amount	GOJ amount
(Social Welfare and Medical Treatment)	$14,847,747	11,190,830
Doctors and Dentists from Japan	306,144	316,089
Mental Hygiene Program	1,211,256	1,037,119
Tuberculosis Examination Program	0	15,894
Hospitalization of TB and Other Patients	1,903,969	1,235,367
Treatment of Atomic Bomb Patients	23,206	22,225
Treatment of Hansen's Disease Patients	102,311	37,506
Improvement of Naha Hospital Facilities	1,180,133	1,180,133
Welfare Measures for Physically Handicapped	58,789	24,245
a. Welfare Measures	13,055	0
b. Consultation and Examination	8,381	8,381
c. Rehabilitation Guidance Office	37,353	15,864
Daily Life Security Program	3,131,250	2,871,500
Child Welfare Measures	1,056,525	869,919
a. Child Protection Measures	464,958	458,033
b. Medical Treatment of the Young	40,161	11,392
c. Children's Nursery	168,950	156,944
d. Mentally Retarded Children's Facility	119,070	46,378

Project	US amount	GOJ amount
e. Child Support Allowance	$ 263,386	197,172
Welfare Activities for the Aged	169,611	85,828
Government Employee's Retirement Annuity Program	827,397	138,889
National Pension	2,345,878	2,356,544
Trash Disposal Facility	304,000	152,778
Municipal Housing	565,839	522,797
Rural Electrification	69,661	37,394
U.S. Forces' Employees' Separation Measures	501,164	138,889
Health Center Officer's Residence	126,697	0
Unemployment Insurance	0	147,714
Vocational Training Office Construction	899,600	0
Children's Hall Construction	64,317	0
(Education)	18,052,380	16,840,725
School Teachers' Salary	11,654,641	11,388,700
Free Textbook Program	1,524,589	256,886
School Facilities	2,926,894	3,251,208
Agricultural Education Facilities	87,014	93,895
School Equipment	621,406	509,475

Project	US amount	GOJ amount
University of the Ryukyus	$ 1,045,689	468,542
a. Health Science Department	775,014	377,683
b. Equipment for Other Departments	270,675	80,000
c. Survey Expense	0	10,858
Japanese Government Scholarship Program	389,258	371,975
Scholarship Loan Program	207,472	208,333
School Supplies	100,000	50,767
Youth Home Construction	138,889	0
Private School Assistance Fund	76,450	22,222
Kindergarten Facilities	101,817	48,650
Audio-Visual Library	28,933	7,222
Civic Gymnasium	138,889	95,072
Youth Development Activity Promotion	10,439	0
Cultural Properties Protection	0	13,333
Special School Attendance Promotion	0	26,667
Central Community Hall Construction	0	27,778
(Industrial Development)	1,442,269	1,717,588
Model Farm	51,250	44,258
Livestock Improvement	577,519	249,850

Project	US amount	GOJ amount
Okinawan Economic Development Research	$ 75,000	$ 75,000
Construction of Building for Small and Medium-sized Industries Center	0	69,444
Agricultural Research Station	66,542	0
Fisheries Research Station	35,000	0
Agricultural Structure Improvement	191,442	2,022
Iriomote Youth Training Center	368,755	82,570
Assistance for Sugar Industry Development	0	1,194,444
Long Range Economic Plan Development	26,161	0
Agricultural Extension Office Building	50,600	0
(Local Finance)	7,105,900	5,000,000
Improvement of Financial Ability of Shi-Cho-Son	6,974,000	5,000,000
Government Employees' Training Office	131,900	0
(Technical Assistance)		
Technical Assistance	518,717	435,675
a. General Technical Assistance	323,480	267,228
b. Educational Guidance	88,285	99,869

Project	US amount	GOJ amount
c. Educational and Cultural Training	$ 97,655	$ 68,578
d. Small and Medium-sized Industries Management Improvement	9,297	0
(Treasury Investment)	4,000,000	1,666,667
Funds for Agriculture, Forestry and Fisheries	1,000,000	
Funds for Small and Medium-sized Industries	1,000,000	
Funds for Industrial Development	2,000,000	
(Miscellaneous)	2,790,206	2,146,900
Promotion of Emigration	5,295	0
Weather Station Facilities	916,197	552,116
a. High Altitude Weather Supplies	126,178	132,147
b. Weather Station Facilities	790,019	419,969
Navigation Aid	113,200	113,200
Seaman's Training School	227,561	0
Police Communication Facilities Improvement, etc.	337,500	194,444
Relocation of Police Training School	725,922	179,008

Project	US amount	GOJ amount
Juvenile Home Construction	$ 0	$ 135,911
Youth Hostel Construction	250,000	0
Rescue Boat Construction	0	555,555
Okinawa Prison Relocation	74,500	0
Correctional Officer's Training School Relocation	140,031	0
Miscellaneous	0	416,666
(Nampo Doho Engo-Kai)		
Assistance by Nampo Doho Engo-Kai	179,711	147,455
a. Welfare Loan Fund	15,000	15,000
b. Books for Community Centers	42,200	42,200
c. Welfare Hospital Facilities	59,944	30,808
d. Sports Teams to Japan	5,556	5,556
e. Okinawa Ex-prisoner's Rehabilitation Association Building Construction	57,011	27,778
f. Counselling for Hansen's Disease Patients	0	23,330
g. Heiwa Park Construction Research	0	2,783

Project	US amount	GOJ amount
(Disaster Rehabilitation)		
Typhoon Disaster Rehabilitation	$ 0	$ 209,153
a. School Facilities	0	79,400
b. Retaining Walls	0	35,683
c. Hospital Facilities	0	16,953
d. Telephone Circuit	0	77,117
(Trust Fund Program)	15,856,000	a1,194,444
Industrial Development Fund Loan	4,500,000	
Sugar Industry Fund Loan	500,000	
Fishing Vessels Construction Fund Loan	656,000	
Post and Telecommunication Activities	0	
Housing Construction Fund Loan	4,000,000	
Central Bank for Agriculture, Forestry and Fisheries	1,500,000	
People's Finance Corporation	1,700,000	
Ryukyu Telephone and Telegraph Public Corporation	1,000,000	
Ryukyu Land and Housing Public Corporation	2,000,000	

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

沖縄失業保険福祉施設の
（総合職業訓練所）
設置運営に関する件

44.7.15
宋北一（石河）

1. 総理府特連局、中島援助業務課長補佐は当課を来訪、別添の沖縄失業保険福祉施設の設置運営に関する覚書（案）について次の通り説明した。

本年1月、日米協議委員会において雇用促進事業団が沖縄に総合職業訓練所を設置することに（日米双方）合意をみたので、労働省は三億円近い予算で

本年度にこれを設立する計画である。
ところが運営面につき労働省が直営方式（労働省の直接監督下の下部機構とする。）を考えているのに対し、琉球政府は4月頃、これでは琉政の意向が運営、人事面に反映し難いとして難色を示した。

今般、労働省は琉政の意向をとりいれ別添の通り次の条件を含む覚書案を作成した。—① 施設等は事業団がつくり土地は琉政が提供する。② 運営は琉政に委託する。運営に要する費用は事業団が負担する。③ 人事は琉政と労働省（雇用事業団）と協議して行う。

~~よって~~ 中島援助業務課長補佐は
本案を来月中に決定したいので 当方において 本案
の検討方要望越した。

2、 当方より総理対側の立場からみて
本案につき問題点はないか質したのに対し

中島課長補佐は 同施設の沖縄における
税制面での優遇措置(及び土地の無償貸与)を検討している。

知念副主席は 一応OKの意向を示し、これ
を持ち帰って相談するが問題ないだろう

との趣であった。 また当方より米側
との協議~~は一つ頃までに力々をつける~~
について 何か要望など

~~つもり~~ あり やとの問に対し遅くとも9月中旬
頃まで正式協議を終えてもらいたい旨

要望越した。

沖縄失業保険福祉施設の設置運営に関する覚書（案）

（44. 7. 7
職業訓練局）

沖縄失業保険福祉施設の設置運営に関し、日本政府労働省と琉球列島米国民政府を通じての琉球政府との間において次のとおり取極が成立した。

1. 目　的

この覚書は、雇用促進事業団が沖縄地域に設置する失業保険福祉施設（以下「沖縄失業保険福祉施設」という。）に関しその設置運営の大綱を定めることを目的とする。

2. 定　義

この覚書において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 本土失業保険法　日本本土に施行されている失業保険法（昭和22年法律第146号）をいう。

(2) 沖縄失業保険法　沖縄地域に施行されている失業保険法（1958年立法第5号）をいう。

(3) 沖縄職業訓練法　沖縄地域に施行されている職業訓練法（1968年立法第38号）をいう。

(4) 雇用促進事業団法　日本本土に施行されている雇用促進事業団法（昭和36年法律第116号）をいう。

3. 施設の設置及び運営

(1) 雇用促進事業団は、本土失業保険法第27条の2及び雇用促進事業団法第19条第1項第11号の規定に基づき、沖縄地域における主として本土失業保険法の被保険者であつた者に対して専門的な技能に関する職業訓練を行ない、あわせて求職者及びその他の者に対し必要な職業訓練等を行なうため沖縄失業保険福祉施設を設置するものとする。

(2) 雇用促進事業団は、沖縄失業保険福祉施設の運営を琉球政府に委託するものとする。

(3) 琉球政府は、前号の施設を、沖縄職業訓練法第6条の規定に基づく総合職業訓練所として運営するものとする。

(4) 琉球政府は、沖縄失業保険福祉施設の職員を任免しようとするときは、あらかじめ雇用促進事業団に協議するものとする。

事業内職員

(5) 日本政府は、琉球政府の要請に基づき、沖縄失業保険福祉施設の運営に必要な職員を派遣するものとする。

(6) 琉球政府は、前号の職員を琉球政府公務員として任免するものとする。

4. 費用の負担等

(1) 用地の取得、整地及び電気、ガス、給排水等の用地外工事に要する費用は、原則として琉球政府が、施設の建設、機械器具等の整備及び運営に要する費用は原則として雇用促進事業団がそれぞれ負担するものとし、負担区分の細目については琉球政府と雇用促進事業団が協議して定めるものとする。

(2) 沖縄失業保険福祉施設の財産は、当該財産を取得する費用を負担した琉球政府又は雇用促進事業団の財産とする。

(3) 琉球政府は、雇用促進事業団に対し、無償で土地を使用させるものとする。

5. 職業訓練の種類及び業務

沖縄失業保険福祉施設においては、沖縄職業訓練法の規定に基づく職業訓練を実施するものとし、職業訓練の種類及び業務は、次のとおりとする。

(1) 雇用者職業訓練

(2) 求職者職業訓練

(3) 職業訓練指導員訓練

(4) 事業内職業訓練についての援助に関する業務

(5) 前各号に掲げるもののほか職業訓練に関し必要な業務

6. 職業訓練の職種及び訓練生定員

沖縄失業保険福祉施設において行なう職業訓練の職種及び訓練生定員は、沖縄職業訓練法第4条の規定に基づく職業訓練計画、沖縄における求職者の状況、技能労働者の需給状況等を勘案し、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

7. 実習負担金等の徴収

職業訓練に要する費用は、職業訓練の種類別に琉球政府が雇用促進事業団と協議して定める額を徴収するものとする。

8. 組織及び職員定数

沖縄失業保険福祉施設の組織及び職員定数は、職業訓練の種類、訓練生定員、訓練期間等を勘案し、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

9. 登録税等の非課税

琉球政府は、雇用促進事業団には登録税、法人税、自動車税及び市町村税を課さないものとする。

10. 特別手当の支給

琉球政府は、3の(4)により本土から派遣された職員に対し、雇用促進事業団と協議して定める額を特別手当として支給するものとし、特別手当には所得税を課さないものとする。

11. 事業実施状況の通知

琉球政府は、沖縄失業保険福祉施設の事業実施状況を、4半期毎に雇用促進事業団に通知するものとする。

12. 覚書の修正

この覚書について、修正の必要が生じたときは、日本政府労働省と琉球列島米国民政府を通じての琉球政府とがその修正を決定するものとする。

13. 覚書の効力

この覚書は、　　年　　月　　日から効力を生ずる。

14. 附　則

この覚書の実施に関する細目については、雇用促進事業団と琉球政府が協議して定めるものとする。

日本政府労働省　職業訓練局長
日本政府総理府特別地域連絡局長
琉球政府労働局長
琉球政府総務局長
琉球列島米国民政府高等弁務官

年　　月　　日

沖縄総合職業訓練所設置要綱（案）

（44. 3. 24
職業訓練局）

1　施設の設置及び目的

沖縄援助計画の一環として、失業保険法（昭和22年法律第146号）第27条の2の規定に基づき、被保険者であつた者の福祉の増進を図るために必要な施設として、雇用促進事業団が沖縄に総合職業訓練所を設置し、職業訓練を行なうことにより、技能労働者を養成し、もつて労働者の職業の安定と福祉の向上を図るとともに沖縄経済の発展に寄与することを目的とする。

2　運営

イ　沖縄総合職業訓練所においては、主として失業保険の被保険者であつた者に対して専門的な技能に関する職業訓練を行ない、あわせて求職者及びその他の者に対し必要な職業訓練等を行なうものとする。

ロ　沖縄総合職業訓練所は、雇用促進事業団が直接運営する。

但し、沖縄に当該職業訓練所の業務を適確に遂行するに足る能力を有する団体が設置された場合には、当該団体にその運営を委託するものとする。

3　職業訓練の種類及び業務

沖縄総合職業訓練所において行なう職業訓練の種類及び業務は次のとおりとする。

イ　雇用労働者職業訓練

ロ　求職者職業訓練

ハ　職業訓練指導員訓練

ニ　事業内職業訓練についての援助に関する業務

ホ　前各号に掲げるもののほか、職業訓練に関し必要な業務

4　職業訓練の職種及び訓練生定員

沖縄総合職業訓練所において行なう職業訓練の職種及び訓練生定員は、沖縄における求職者の状況、技能労働者の需給状況等を勘案して決定するものとする。（当面8職種、訓練生定員1職種25人の規模で実施するものとする。）

（注）　設置予定職種

機械工、板金工、溶接工、自動車整備工、木工、配管工、建築大工、塗装工

5　職業訓練の基準

沖縄総合職業訓練所において行なう職業訓練は、職業訓練法（昭和33年法律第133号）第10条の規定に基づく公共職業訓練の基準に準じて行なうものとする。

（注）　訓練期間　2年

6　訓練生の募集及び就職のあつ旋

求職者職業訓練の訓練生の募集、入所あつ旋　　は琉球政府公共職業安定所に依頼して行なうものとする。

7　費用

職業訓練に要する費用は、職業訓練の種類別に適正な基準に従つて定める額を徴収するものとする。（本土の総合職業訓練所に準ずるものとする。）

（注）　専門的な技能に関する訓練

実習負担金　訓練生1人　年額　6,000円（全職種同額）

受　験　料　　200円（全職種同額）

8　職員の定員

沖縄総合職業訓練所の定員は、職業訓練の職種、訓練生定員、訓練期間等を勘案した適切な基準に基づいて定めるものとする。（本土の総合職業訓練所に準ずるものとする。）

（注）　所　長　1人　　課長2人　事務職員12人　指導員32人　用人3人

計50人

沖縄総合職業訓練所新設年度別所要見込額（44年度査定ベース）

44.1.12

区分	初年度 員数	初年度 単価	初年度 金額	次年度 員数	次年度 単価	次年度 金額	計 員数	計 金額	備考
	㎡	円	円	㎡	円	円	㎡	円	
本館	1.233	42.600×110%	57.778.000	1.76	42.600×110%	8.247.000	1.409	66.025.000	
実習場	2.836	29.000×110%	90.468.000	2369	29.000×110%	86.990.000	5.205	177.458.000	
大教室	244	34.040×110%	9.136.000			–	244	9.136.000	
附属建物			6.649.000			1.799.000		8.448.000	
変電室	37	23.000×110%	936.000			–	37	936.000	
便所	40	36.720	1.469.000	40	36.720	1.469.000	80	2.938.000	
倉庫	99	22.000×110%	2.396.000			–	99	2.396.000	
鍛造室	50	23.000×110%	1.265.000			–	50	1.265.000	
ガス発生室	10	23.000×110%	253.000			–	10	253.000	
危険物貯蔵庫	10	30.000×110%	330.000	10	30.000×110%	330.000	20	660.000	
雑工作物	電話2本		300.000			–	電話2本	300.000	
寄宿舎			–	660	11.147×110%	8.093.000	660	8.093.000	
職員宿舎	100		2.486.000	100		2.486.000	200	4.972.000	
訓練用装置類			–			20.218.000		20.218.000	
付帯設備			14.300.000			9.739.000		24.039.000	
小計			181.117.000			137.572.000		318.689.000	
事務費			4.883.000			3.714.000		8.597.000	
計			186.000.000			141.286.000		327.286.000	
機械			–	8	1機当 23.013×110%	177.893.000		177.893.000	
合計			186.000.000			319.179.000		505.179.000	

沖縄総合職業訓練所設置要綱（案）

（44. 3. 24
職業訓練局）

1　施設の設置及び目的

沖縄援助計画の一環として、失業保険法（昭和22年法律第146号）第27条の2の規定に基づき、被保険者であつた者の福祉の増進を図るために必要な施設として、雇用促進事業団が沖縄に総合職業訓練所を設置し、職業訓練を行なうことにより、技能労働者を養成し、もつて労働者の職業の安定と福祉の向上を図るとともに沖縄経済の発展に寄与することを目的とする。

2　運営

イ　沖縄総合職業訓練所においては、主として失業保険の被保険者であつた者に対して専門的な技能に関する職業訓練を行ない、あわせて求職者及びその他の者に対し必要な職業訓練等を行なうものとする。

ロ　沖縄総合職業訓練所は、雇用促進事業団が直接運営する。

但し、沖縄に当該職業訓練所の業務を適確に遂行するに足る能力を有する団体が設置された場合には、当該団体にその運営を委託するものとする。

3　職業訓練の種類及び業務

沖縄総合職業訓練所において行なう職業訓練の種類及び業務は次のとおりとする。

イ　雇用労働者職業訓練

ロ　求職者職業訓練

ハ　職業訓練指導員訓練

ニ　事業内職業訓練についての援助に関する業務

ホ　前各号に掲げるもののほか、職業訓練に関し必要な業務

4　職業訓練の職種及び訓練生定員

沖縄総合職業訓練所において行なう職業訓練の職種及び訓練生定員は、沖縄における求職者の状況、技能労働者の需給状況等を勘案して決定するものとする。（当面8職種、訓練生定員1職種25人の規模で実施するものとする。）

（注）　設置予定職種

機械工、板金工、溶接工、自動車整備工、木工、配管工、建築大工、塗装工

5　職業訓練の基準

沖縄総合職業訓練所において行なう職業訓練は、職業訓練法（昭和33年法律第133号）第10条の規定に基づく公共職業訓練の基準に準じて行なうものとする。

（注）　訓練期間　　2年

6　訓練生の募集及び就職のあつ旋

求職者職業訓練の訓練生の募集、入所あつ旋　　は琉球政府公共職業安定所に依頼して行なうものとする。

7　費用

職業訓練に要する費用は、職業訓練の種類別に適正な基準に従つて定める額を徴収するものとする。（本土の総合職業訓練所に準ずるものとする。）

（注）　専門的な技能に関する訓練

実習負担金　　訓練生1人　　年額　6,000円（全職種同額）

受　験　料　　200円（全職種同額）

8　職員の定員

沖縄総合職業訓練所の定員は、職業訓練の職種、訓練生定員、訓練期間等を勘案した適切な基準に基づいて定めるものとする。（本土の総合職業訓練所に準ずるものとする。）

（注）　所　長　1人　　課長2人　事務職員12人　指導員32人　用人3人

計50人

沖縄総合職業訓練所新設年度別所要見込額（44年度査定ベース）

44.1.12

区分	初年度			次年度			計		備考
	員数	単価	金額	員数	単価	金額	員数	金額	
本館	1.233 m²	42.600×110% 円	57.778.000 円	176 m²	42.600×110% 円	8.247.000 円	1.409 m²	66.025.000 円	
実習場	2.836	29.000×110%	90.468.000	2369	29.000×110%	86.990.000	5.205	177.458.000	
大教室	244	34.040×110%	9.136.000			-	244	9.136.000	
附属建物			6.649.000			1.799.000		8.448.000	
変電室	37	23.000×110%	936.000			-	37	936.000	
便所	40	36.720	1.469.000	40	36.720	1.469.000	80	2.938.000	
倉庫	99	22.000×110%	2.396.000			-	99	2.396.000	
鍛造室	50	23.000×110%	1.265.000			-	50	1.265.000	
ガス発生室	10	23.000×110%	253.000			-	10	253.000	
危険物貯蔵庫	10	30.000×110%	330.000	10	30.000×110%	330.000	20	660.000	
雑工作物	電話2本		300.000			-	電話2本	300.000	
寄宿舎			-	660	11.147×110%	8.093.000	660	8.093.000	
職員宿舎	100		2.486.000	100		2.486.000	4戸 200	4.972.000	
訓練用装置類			-			20.218.000		20.218.000	
付帯設備			14.300.000			9.739.000		24.039.000	
小計			181.117.000			137.572.000		318.689.000	
事務費			4.883.000			3.714.000		8.597.000	
計			186.000.000			141.286.000		327.286.000	
機械			-	8	1職種 23.013×110%	177.893.000		177.893.000	
合計			186.000.000			319.179.000		505.179.000	

北米第一課長

沖縄失業保険福祉施設の
設置運営に関する覚書(案)について

44.9.6
北一

1. 本件覚書案(別添1参照)に関し、当省としては関係各省の完全な了解が成立した後に米側との協議を始めたいと考えていたところ(従来協議過程において関係省より異議なし至訂正方申し越す例があった)、特連局からは9月中旬頃までに米側との正式協議を終えられたい旨の要望の次第もあり、同局に対し関係各省の最終的了解取付方再三督促していた。

2. しかるところ、本件の主管官庁たる労働省より特連局を通じ、8月初旬以、琉球政府側と協議した結果、さらに1部訂正の要が生じ、いつまた大蔵省に対する説明も終了していないので、同省より改正案を送付するまで、米側と協議を始めることは暫時待たれたい旨連絡越した。

3. 9月5日特連局援助業務課中島補佐より、以、大蔵省に対する説明は今週中に終了する見込みにつき、来週早々には外務省に改正案を送付できるものと思う、以、米側の了解取付けはたとえ10月に入っても事務上支障ない旨(本件センターの発足は明年4月1日の予定)連絡越した。

GA 6 外務省

法規課長　　北米オ一課長

「沖縄の総合訓練所の
設置運営に関する覚書(案)」について

44.10.30
米北一

10月29日特連局技助業務課(中島補佐)より、本件に関する別添覚書案を提示し、

本覚書案は日琉両政府間の取極めとなっているところ、外務省が米国民政府担当官の

署名をあわせ取付ける従来の方式によるべしとの見解であれば、その線で案の内容も1部修

正する考えにつき、何分の儀至急回答ありたい旨要請があった。

本件については、下記2.の理由により、米民政府担当官の署名をあわせ取付ける形式とすべき

と思料するにつき、この旨特連局に回答することと

特連局において米民政府を入れる案文作成の上、再提示することに沿ってみ(佐藤)

いたしたい。

記

1. 特連局補足説明

本件覚書案は、さきの諮問委勧告に基づく(別添付属1参照)
実施要領を内容とするものにつき、米民政府

担当官の署名は不要とした。

2. 当方私見

(1) 諮問委の勧告は、高等弁務官に対する

勧告であって、これが直接日米両国政府
を法的に拘束する~~ものとは考えず~~
とは考えられない。

(2) 琉球政府は米民政府の下部機構で
あり、同政府が、米民政府を排除して

日本政府との間に締結した覚書が

国際法上拘束力を有するか、疑問がある。

(3). 本件訓練所に関する日本政府の対沖縄

(予算は労働省予算に計上、別添付属3の2ページ参照)

援助は本年1月の沖縄に関する日米協

議委員会第1/7回会合で決定をみた

経緯がある。しかし、同会合においては

実施細目の要綱の取扱いについて特に

言及されなかったが、上記経緯にも鑑み

米民政府を何らかの形で参加させる方

が、今後の本件訓練所の運営に寄り

有利と考える。

(なお、目下米側と折衝中の44会計年度

財政融資に関する覚書及び、戦前の郵便

貯金等の解決に関する覚書は、何れも米側

担当官をも署名者としている。)

沖縄の総合職業訓練所の設置運営に関する覚書（案）

（44年10月）

1. 覚書の趣旨

この覚書は、日米琉諮問委員会勧告第18号「職業訓練の充実について」に基づき、日本国政府（以下「本土政府」という。）と琉球政府が、その協力により沖縄に総合職業訓練所を設置運営することに関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 施設の設置及び運営

(1) 本土政府は、雇用促進事業団が沖縄において、本土失業保険法第27条の2及び雇用促進事業団法第19条第1項第11号の規定に基づき、主として本土失業保険法の被保険者であつた者に対して専門的な技能に関する職業訓練を行ない、あわせて求職者及びその他の者に対し必要な職業訓練等を行なうため失業保険福祉施設（以下「施設」という。）を設置するよう措置するものとする。

(2) 雇用促進事業団は、施設の運営を琉球政府に委託するものとする。

(3) 琉球政府は、前号の施設を沖縄職業訓練法第6条の規定に基づく総合職業訓練所として運営するものとする。

3. 費用の負担等

(1) 施設の用地の取得及び整地ならびに電気、ガス、給排水等の用地外工事に要する費用は、原則として琉球政府が、施設の建設、機械器具等の整備及び運営に要する費用は原則として雇用促進事業団がそれぞれ負担するものとする。

(2) 上記(1)に規定する費用の負担区分の細目については、琉球政府と雇用促進事業団が協議して定めるものとする。

(3) 施設の財産は、当該財産を取得する費用を負担した琉球政府又は雇用促進事業団の財産とする。

(4) 琉球政府は、雇用促進事業団に対し、土地を無償で使用させるものとする。

4. 組織及び職員

(1) 施設の組織及び職員定数は、職業訓練の種類、訓練生定員、訓練期間等を考慮して、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

(2) 下記5.に規定する職員のほか、施設の職員の任免については、琉球政府が雇用促進事業団と協議して行なうものとする。

5. 職員の派遣

(1) 本土政府は、琉球政府の要請に基づき雇用促進事業団が施設の運営に必要な職員を派遣

するよう措置するものとする。

(2) 雇用促進事業団から琉球政府へ派遣される職員の人選については、雇用促進事業団と琉球政府の協議によつて決定するものとする。

(3) 上記により派遣された雇用促進事業団職員の任用、給与、災害補償等については、雇用促進事業団と琉球政府が別に協議して定めるものとする。

6. 職業訓練の種類及び業務

(1) 施設においては、沖縄職業訓練法の規定に基づく職業訓練を実施するものとし、職業訓練の種類及び業務は、次のとおりとする。

イ 雇用者職業訓練

ロ 求職者職業訓練

ハ 職業訓練指導員訓練

ニ 事業内職業訓練についての援助に関する業務

ホ 前各号に掲げるもののほか職業訓練に関し必要な業務

(2) 施設において行なう職業訓練の職種及び訓練生定員は、沖縄職業訓練法第4条の規定に基づく職業訓練計画、沖縄における求職者の状況等を考慮して、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

7. 実習負担金等の徴収

職業訓練生から、職業訓練に要する費用として徴収する実習負担金等の額は、職業訓練の種類別に琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるところによるものとする。

8. 雇用促進事業団への非課税

琉球政府は、雇用促進事業団に、次に掲げる税を課さないよう措置するものとする。

所得税

法人税

自動車税

市町村税

登録税

9. 事業実施状況の通知

琉球政府は、施設の事業実施状況について、毎事業年度の4半期毎に雇用促進事業団に通知するものとする。

10. 疑義解釈等

この覚書の規定に疑義が生じた場合、または細目とり決めの必要を生じた場合には、そのつど、本土政府と琉球政府が協議して定めるものとする。

日本政府労働省職業訓練局長

日本政府総理府特別地域連絡局長

琉球政府労働局長

琉球政府総務局長

昭和44年　　月　　日

秘
発表まで

沖縄に関する日米協議委員会第十七回会合の開催について（案）

昭和四十四年一月十三日

一　沖縄に関する日米協議委員会の第十七回会合は、昭和四十四年一月十三日午前十時半から外務省で開催された。

委員会には、日本側から愛知外務大臣及び床次総理府総務長官が出席し、米側からジョンソン駐日米国大使が出席したほか、米国民政府カーペンター民政官も同席した。

二　日米双方は、琉球政府の一九七〇会計年度（昭和四十四年七月一日～昭和四十五年六月三十日）中に支出される総額二一七億四、九〇二万三千円（六〇、四一三、九五三ドル）にのぼる日本政府の対沖縄援助計画に合意した。日本政府の対沖縄援助計画は、日本政府予算が成立した時点において正式に確定する。

なお、日琉会計年度の相違を考慮して、援助計画中一五二億五〇〇万ドル千円は、日本政府の昭和四十四会計年度予算に計上され、残額六五億四四〇一万六千円は昭和四十五会計年度中に支出されることになつている。（援助計画詳細は別紙のとおり）

三　今回合意された援助計画は、日米両政府が琉球政府の意向を十分考慮しつつ、沖縄と本土との一体化の促進及び沖縄住民の民生福祉の向上に資することを目的として慎重な協議を行なつた結果である。

日米双方は、今回合意された援助計画は、日米琉諮問委員会の勧告の実施、特に保健及び社会福祉の分野における一体化の促進のために大きな意義を有することを認めた。日本側より、昨年十一月五日の閣議で決定をみた本土と沖縄の一体化を明年度以降、おおむね三カ年間で完了するとの日本政府の基本方針にかんがみ、日本政府としても明年度の沖縄援助を特に重視し、財政事情の許す範囲内で最大限の援助を行なうべく努力した旨説明した。

なお、日本側は、米側より沖縄援助計画の一環として要請のあつた総合職業訓練所の建設について、雇用促進事業団の明年度事業計画の一環として実施する旨付言し、米側もこれを了承した。

四　日本側より、多年懸案であつた沖縄住民のもつている日本郵便貯金等の払戻し問題が解決をみた結果、沖縄に対し総額四十億円の資金が提供されることになつた旨述べ、そのうち三十億円は住宅建設資金として明年度以降三カ年間にわたり融資されることになつており、そのうち初年度分十億円が今回合意をみた沖縄援助計画の住宅融資計画に組入れられている旨説明した。

CONFIDENTIAL

(Draft)

Joint Press Release on the 17th Meeting of the Japan-U.S. Consultative Committee on Okinawa

January 13, 1969

1. The Seventeenth Meeting of the Japan-U.S. Consultative Committee on Okinawa was held at the Ministry of Foreign Affairs at 10:30 on January 13, 1969.

Foreign Minister Kiichi Aichi and Director-General of the Prime Minister's Office Tokuji Tokonami represented the Japanese Government and Ambassador U. Alexis Johnson represented the United States Government at the Meeting. Civil Administrator Stanley S. Carpenter, United States Civil Administration of the Ryukyu Islands, was also present.

2. The Japanese and the United States sides agreed on the Japanese Government's assistance program to Okinawa, of a total amount of ¥21,749,023,000 ($60,413,953), to be disbursed in the Ryukyuan Fiscal Year 1970 (from July 1, 1969 through June 30, 1970). The Japanese Government's program of assistance to Okinawa will become final when the Japanese Government's budget is approved by the Diet. In view of the difference between the Japanese and

Ryukyuan

Ryukyuan fiscal years, funds amounting to ¥15,205,007,000 ($42,236,131) are budgeted in the Japanese Government's Fiscal Year 1969, while the rest amounting to ¥6,544,016,000 ($18,177,822) is to be disbursed in the Japanese Fiscal Year 1970.

(The details of the assistance program are given in the attached sheet)

3. The agreed assistance program is the outcome of extensive consultations conducted between the Governments of Japan and the United States. The program aims at the promotion of Ittaika between Okinawa and Japan proper as well as the improvement of the livelihood and welfare of the Okinawan residents, and was developed with due consideration to the desires of the Government of the Ryukyu Islands.

The Japanese and the United States sides recognized that the agreed assistance program will make significant contributions to the implementation of the recommendations made by the tripartite Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands, particularly to the promotion of Ittaika in the fields of health and social welfare.

The Japanese side stated that, in the light of the policy objectives of the Japanese Government set forth at the Cabinet meeting on November 5 of last year (that Ittaika between Okinawa and Japan proper should be completed approximately in three years

time,

time, beginning with JFY 1969), the Japanese Government has attached particular significance to the assistance program to Okinawa for this coming fiscal year. The Japanese Government has thus made its utmost efforts to appropriate for the program the maximum possible amount given the limitations of its financial resources.

The Japanese side added that a Comprehensive Vocational Training Center, which has been requested by the U.S. side to be included in the Japanese Government assistance program, would be established by the Employment Promotion Corporation of Japan as a project of its own in the coming fiscal year. The United States side stated that it would accept this procedure.

4. The Japanese side also noted that funds of four billion yen will be made available to Okinawa as a result of the resolution of the long-standing question of the repayment of the prewar postal savings deposited by Okinawan residents in the Japanese Postal Savings System. Of the total disbursement involved, three billion yen will be loaned for housing construction over three years starting with the Ryukyuan Fiscal Year 1970. The Japanese side added that one billion yen for the first year of the program is included in the housing loan funds in the agreed assistance program.

付属 1

琉球列島高等弁務官に対する諮問委員会

沖縄 那覇

首題：職業訓練の充実について

勧告第18号

1 沖縄における職業訓練行政については、最近ようやく、本土とほぼ同内容の職業訓練法の制定もみたところであるが、その行政の実情には、なお改善充実をはかるべき点も多く、今後ますます重要となる雇用対策の基礎をかためるため、その整備が急がれねばならない状況にある。

2 諮問委員会は、このような沖縄の職業訓練行政について、本土との格差を是正し、その一体化を推進する見地から、検討の結果次のとおり合意した。

（1） 職業訓練を実施していく基盤たる職業訓練所や指導員、カリキュラムなどが未だ不十分な状況にあることにかんがみ、琉球政府において、日本国政府の協力を得て、早急に職業訓練行政の整備をすすめる必要があること。

（2） 特に、今後の経済ないし雇用事情を考慮した場合、職業訓練制度の中心的機関として、専門的な技術に関する職業訓練を行なうとともに職業訓練指導員の訓練や企業内で行なわれる職業訓練に対する援助を行なう総合職業訓練所を設置する必要があること。

3 よつて、諮問委員会は、高等弁務官が本件の実現につき適切な措置をとるとともに、本件実現に関し、日本国政府より提供される協力について便宜をはかるよう勧告する。

日本国政府代表	琉球政府代表	米国政府代表
高瀬侍郎	瀬長浩	議長 ローレンス．C．バース

あて： 琉球列島高等弁務官に対する諮問委員会

発 ： 琉球列島高等弁務官

本勧告に同意し、かつ、各政府代表が当該政府に本勧告を伝達するよう要請する。

琉球列島高等弁務官
米国陸軍中将 F．T．アンガー

ADVISORY COMMITTEE TO THE HIGH COMMISSIONER OF THE RYUKYU ISLANDS
NAHA, OKINAWA

30 September 1968

MEMORANDUM FOR: THE HIGH COMMISSIONER OF THE RYUKYU ISLANDS

SUBJECT: Strengthening Vocational Training

Recommendation No 18

1. Concerning the administration of vocational training in Okinawa, the Vocational Training Act, similar in substance to that of Japan proper, was finally enacted recently. However, in reality there are still many aspects which need improvement and strengthening, and the circumstances demand the consolidation of the administrative system in order to strengthen the foundation of employment countermeasures which will increase in importance in the future.

2. As a result of a study of vocational training administration from the viewpoint of promoting identification by eliminating the differences between Japan proper and Okinawa, the AdCom reached agreement as follows:

a. In view of the present inadequate situation with respect to vocational training institutions, instructors, and curricula, which are basic factors for vocational training, it is necessary for the GRI, with cooperation from the GOJ, to immediately take measures to strengthen and consolidate the administration of vocational training.

b. Especially considering the future economic and employment situations, it is necessary to establish a consolidated vocational training institution, as the central agency for the vocational training system, which will provide for professional skills, train instructors, and render assistance to in-service training conducted at private enterprises.

3. Therefore, the AdCom recommends that the HICOM take appropriate measures for the realization of these matters and to facilitate the cooperation to be extended by the GOJ.

JIRO TAKASE, GOJ Representative	HIROSHI SENAGA, GRI Representative	LAURENCE C. VASS, U S Representative/Chairman

30 September 1968

TO: Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands

FROM: High Commissioner of the Ryukyu Islands

HCRI-AdCom 30 September 1968
SUBJECT: Strengthening Vocational Training

I concur in this recommendation of the AdCom and request the Representatives to convey to their respective governments this approved recommendation.

F. T. UNGER
Lieutenant General, ~~United~~ States Army
High Commissioner

付属 2

秘
無期限

沖縄に関する協議委員会
第17回会合

議長用メモ

昭和44年1月13日

（着　席）

（報道関係者はあらかじめ所定の位置に入場、写真撮影の後退場）

1. （開会及び議事日程採択）

只今より、沖縄に関する日米協議委員会の第17回会合を開催いたします。

まず、田中前総務長官に代わられました床次総理府総務長官を御紹介したいと存じます。ここで床次総務長官より簡単な御挨拶があると承知しております。床次総務長官どうぞ。

（床次総務長官発言）

（通　訳）

床次長官ありがとうございました。ここでジョンソン大使から御発言があると承知しております。大使どうぞ。」

（ここでジョンソン大使より挨拶、米側出席者紹介）

大使ありがとうございました。私は、本委員会の議長として、また日本側を代表して、カーペンター民政官、エリクソン参事官、サイプ参事官~~及び~~クレーマー民政府計画局長及びライフケン書記官の参加を歓迎いたします。

それでは、本日の議題についてお諮りいたします。お手許にお配りした議事日程案に御異議ありませんか。

（米側より異議なき旨発言）

御異議がなければ、これについて議事を進めます。

2. （議題1　技術委員会提出の昭和44会計年度日本政府沖縄援助計画一覧表（一部昭和45会計年度に支出されるものを含む。））

それでは、議題1の技術委員会提出の昭和44年度日本政府沖縄援助計画一覧表（一部昭和45会計年度に支出されるものを含む。）についての討議に移ります。

ジョンソン大使より御発言があると承知しております。ジョンソン大使どうぞ。

（ジョンソン大使、カーペンター民政官及びクレーマー計画局長から一覧表を説明。）

ジョンソン大使、カーペンター民政官及びクレーマー計画局長ありがとうございました。日本側を代表して、技術

委員会の御努力を多といたします。またこの一覧表が技術委員会に付託されるに先立つ日米事務当局間における非公式協議が、沖縄問題に関する日米両国の態度を特徴づける相互理解と信頼の精神に基づいて行なわれました。この非公式協議を通じて、日本政府の対沖縄援助計画について満足すべき合意に達したことについても、関係者の御努力を多とするものであります。

沖縄住民のもつている日本郵便貯金等の払戻し問題が解決をみた結果、日本政府の沖縄援助計画の住宅融資計画に10億円を追加することが可能になりました。

この項目と額を技術委員会提出の計画一覧表に含めることに米側は同意されますか。

（大使より同意する旨発言）

10億円の住宅融資への追加を計画一覧表に含めることにつき合意がえられましたので、日本側は、技術委員会から提示された計画一覧表を日本政府の予想援助計画といたしたいと存じます。すなわち、昭和39年4月25日付交換公文第2項(c)に規定されている国内的措置がとられることを条件に、この計画一覧表を日本政府の沖縄に対する援助計画とすることに同意するものであります。米側においても同様の了解をもつて、この援助計画に同意されるか否かおたずねしたいと存じます。

（ジョンソン大使より同意する旨発言）

これによつて昭和44年4月以降の日本政府

なお、日本政府としては若干の追加援助を考慮している次第でありますが、明年度日本政府予算案の最終的確定が遅れたため、よって本件追加確定の上は、改めて協議委員会を開くことなく、事務レベルにおいて取決めることとしたいと考えます。
（米側より、新規追加項目が従来の米提案の枠内にあることを条件に、同意）

府の予想援助計画について合意が成立いたしました。

日本政府の沖縄援助は逐年増加してまいりましたが、明年度は日米琉諮問委員会の成果を基礎にして、本土と沖縄の一体化を総合的、かつ、組織的に実施して行くべき重要な年であります。その意味で日本政府としても明年度の援助計画を検討するにあたり、日米琉諮問委員会の勧告の具体的な実施、なかんずく保健及び社会福祉の分野における格差是正を中心とした本土と沖縄の一体化の促進に、特に意を用いた次第でありまして、本日合意されました援助計画は、今後の一体化施策の促進に大きく寄与するものと信じます。

ここで床次総務長官より御発言があると承知しております。床次総務長官どうぞ。

（床次総務長官発言）

（通　訳）

床次総務長官ありがとうございました。

ここでジョンソン大使より御発言があると承知しております。ジョンソン大使どうぞ。

（ジョンソン大使発言）

（通　訳）

ジョンソン大使ありがとうございました。

3.　（議題2　新聞発表についての合意）

最後に、議題2の新聞発表振りについてお諮りいたします。事務当局で用意した発表文案をお手許にお配りしてありますが、これを報道関係者に配布し、それによつて説明を行なうこととしたいと考えますが、御異議ありませんか。

（また、追加分については「日本政府来年度予算案確定までに若干の援助額が追加される場合には、追つて本額も来年度援助額に加えることも意図された」旨口頭で追加説明することとしたいと考えますが、御異議ありませんか。）

（米側より同意する旨表明）

では、新聞発表については、只今申し上げたとおり運ぶことに決定いたしました。

なお、ジョンソン大使は、この度国務次官に御栄転され、近く帰国されることとなつたと承知しておりますが、日本側を代表して、沖縄に関する日米両国の理解と協力の増進に尽くされたジョンソン大使のたゆみなき御努力に心から感謝の念を表明するとともに、沖縄問題という重要な問題の円滑な解決を通じて日米友好関係を一層強固なものにせんとする日本政府国民の努力に対し、今後とも一層の御理解と御支援をお願いいたします。

大使が御健康に留意され、新しい重要な職責を十分に果されることを願つております。

4.　（閉　会）

本日の委員会は、皆様の御協力をもつてきわめて円滑に議事を進めることができました。皆様の御協力を感謝いたします。第17回協議委員会はこれをもつて閉会いたします。ありがとうございました。

付属3

秘
無期限

沖縄に関する日米協議委員会
第17回会合における床次総
務長官発言

昭和44年1月13日

（議題　技術委員会提出の昭和44会計年度日本政府対沖縄援助計画一覧表（一部昭和45会計年度に支出されるものを含む。））

今回、数次にわたる日米間の非公式協議で調整された昭和44会計年度日本政府の対沖縄援助計画案が、本日当委員会で日米両国政府の合意をみましたことはまことに喜ばしく意義深いことと存じます。

今回の援助計画は、昨年10月25日の第16回日米協議委員会において米側から提案されました主要項目及び特に強調された生活保護をはじめとする各種社会保障制度の拡充のための諸計画、日米琉諮問委員会の成果及び昨年日本政府が実施した一体化調査団の調査結果を参酌して策定されたものであります。特に日本政府としては、明年度の援助計画が昨年11月5日の閣議で決定をみた本土と沖縄の一体化を明年度以降おおむね3カ年で完了するという政府の基本方針に基づく初年度分にあたる点に思いをいたし、財政事情の許す範囲内で援助の拡大充実をはかつたのであります。

すなわち、一体化の中心課題となります教育、社会福祉、産業基盤、市町村行政財政等に援助の重点をおき、教育面では学校施設及び備品を整備充実し、社会福祉関係では拠出制の国民年金、公務員退職年金、失業保険、児童手当、離職者対策等の新たな援助のほか、生活保護、児童福祉、精神衛生、ハンセン氏病対策、身体障害者福祉、住宅建設等の事業の一層の拡大をはかつております。産業基盤の整備につきましては、港湾漁港の整備、道路整備、森林開発等に重点をおき、昨年度から新たに行なわれました市町村財政充実のための援助費は大巾な拡充をいたしております。また産業資金の充実、警察施設の整備、特別少年院の建設、救難艇の建造等を新たに計画するほか、昨年9月の第3宮古島台風災害の復旧のための援助も含まれております。

なお、かねて米側から要請のありました総合職

業訓練所の建設につきましては、雇用促進事業団の明年度計画事業の一部として実施することとし、今回の援助計画の一環といたしたいと存じております。また、多年の懸案となつておりました日本郵便貯金等の沖縄住民に対する払戻しの問題につきましては、債権者代表と日本政府との間に協議が整い一応の解決をみることになりましたので、その法定払戻金、見舞金及び厚生福祉施設建設に要する資金は、日本政府の明年度郵便事業特別会計予算に計上され、住宅建設資金については、今回の援助計画中の住宅融資計画に含まれているのであります。

（予算は労働省予算に計上のこと）

以上申し述べました諸事業の推進は、いずれも沖縄住民の福祉を増進し、日本本土と沖縄との格差を是正し、一体化を進めるために大いに寄与するものと確信いたしております。

昨年那覇に設けられました日米琉諮問委員会は、発足早々にもかかわらず多大の成果を挙げ、一体化推進のため貢献するところが大であつたのでありますが、今年は第2年次目としていよいよその

活動が期待されるのであります。

この諮問委員会の活動とともに日米協議委員会その他の日米間の協議を通じ、両国政府の緊密な協力により本年は本土と沖縄の一体化施策がますます本格的に推進されることを期待いたしているものであります。

ありがとうございました。

条約課長
1、法規課長
鈴木
3、アメリカ局長
2、参事官
北米第一課長

沖縄の総合職業訓練所の
設置運営に関する覚書について

45.1.16
米北一

総理府特連局より、本件覚書案について米国民政府及び琉球政府側と折衝方要請越したので、(別添3、総理府公信総特第4270号御参照)、別紙覚書日英両案文(別添1及び2)を在京米国大使館に非公式に提示し、検討方要請することといたしたい。

なお、本件総合職業訓練所については、きさの沖縄米軍基地労務者解雇問題に関連し早急に設置することを政府においても決定した経緯もあり、また本覚書の署名取付け、交換をまって

GA 6　外務省

40.3.15
[illegible]

建設費等の外貨送金が可能となる趣につき、労働省としては遅くとも2月中旬までには正式覚書の交換を完了する必要がある旨述べている。

追って、別添英文案(別添2)は、労働省が作成した案文をさらに同省担当官と逐条審議し、北米一課において修正したものにつき、御参考まで。

GA 6　外務省

別添1

沖縄の総合職業訓練所の設置運営に関する覚書（案）

（44.12.8）

1. 目的

琉球諸島高等弁務官に対する諮問委員会勧告第18号「~~職業訓練の充実について~~」及び

この覚書は、第17回日米協議委員会における合意にもとづき、日本国政府労働省（以下「労働省」という。）と琉球政府が、その協力により沖縄に総合職業訓練所を設置運営することに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2. 施設の設置及び運営

(1) 労働省は、本土の雇用促進事業団が沖縄において、本土失業保険法第27条の2及び雇用促進事業団法第19条第1項第11号の規定に基づき、主として本土失業保険法の被保険者であつた者に対して専門的な技能に関する職業訓練を行ない、あわせて求職者及びその他の者に対し必要な職業訓練等を行なうため失業保険福祉施設（以下「施設」という。）を設置するよう措置するものとする。

(2) 雇用促進事業団は、施設の運営を琉球政府に委託するものとする。

(3) 琉球政府は、前号の施設を沖縄職業訓練法第6条の規定に基づく総合職業訓練所として運営するものとする。

3. 費用の負担等

(1) 施設の用地の取得及び整地ならびに電気、ガス、給排水等の用地外工事に要する費用は、原則として琉球政府が、施設の建設、機械器具等の整備及び運営に要する費用は原則として雇用促進事業団がそれぞれ負担するものとする。

(2) 上記(1)に規定する費用の負担区分の細目については、琉球政府と雇用促進事業団が協議して定めるものとする。

(3) 施設の財産は、当該財産を取得する費用を負担した琉球政府又は雇用促進事業団の財産とする。

(4) 琉球政府は、雇用促進事業団に対し、土地を無償で使用させるものとする。 1文字

4. 組織及び職員

(1) 施設の組織及び職員定数は、職業訓練の種類、訓練生定員、訓練期間等を考慮して、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

(2) 下記5.に規定する職員のほか、施設の職員の任免については、琉球政府が雇用促進事業団と協議して行なうものとする。

5. 職員の派遣

(1) 労働省は、琉球政府の要請に基づき雇用促進事業団が施設の運営に必要な職員を派遣するよう措置するものとする。

(2) 雇用促進事業団から琉球政府へ派遣される職員の人選については、雇用促進事業団と琉球政府の協議によつて決定するものとする。

(3) 上記により派遣された雇用促進事業団職員の任用、給与、災害補償等については、雇用促進事業団と琉球政府が別に協議して定めるものとする。

6. 職業訓練の種類及び業務

(1) 施設においては、沖縄職業訓練法の規定に基づく職業訓練を実施するものとし、職業訓練の種類及び業務は、次のとおりとする。

イ 雇用者職業訓練

ロ 求職者職業訓練

ハ 職業訓練指導員訓練

ニ 事業内職業訓練についての援助に関する業務

ホ 前各号に掲げるもののほか職業訓練に関し必要な業務

(2) 施設において行なう職業訓練の職種及び訓練生定員は、沖縄職業訓練法第4条の規定に基づく職業訓練計画、沖縄における求職者の状況等を考慮して、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

7. 実習負担金等の徴収

職業訓練生から、職業訓練に要する費用として徴収する実習負担金等の額は、職業訓練の種類別に琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるところによるものとする。

8. 雇用促進事業団への非課税

琉球政府は、雇用促進事業団に、次に掲げる税を課さないよう措置するものとする。

所得税

法人税

自動車税

市町村税

登録税

9. 事業実施状況の通知

琉球政府は、施設の事業実施状況について、毎事業年度の4半期毎に雇用促進事業団に通知するものとする。

10. 疑義解釈等

この覚書の規定に疑義が生じた場合、または細目とり決めの必要を生じた場合には、そのつど、労働省と琉球政府が協議して定めるものとする。

11. 覚書の効力

この覚書は、下記の四者のすべてが署名を終え且つ琉球政府の署名について米国民政府の承認が[redacted]与えられた日に効力を発する。

昭和　年　月　日	昭和　年　月　日
日本国政府	日本国政府
労働省職業訓練局長	総理府特別地域連絡局長
昭和　年　月　日	昭和　年　月　日
琉球政府	琉球政府
総務局長	労働局長

高等弁務官に代つて承認する。

昭和　年　月　日

米国民政府

総務部長

別添 1

Memorandum concerning the Assignment
of Officials by the Government of Japan
to the Government of the Ryukyu Islands

(draft)

1. Purpose of Memorandum

This Memorandum shall provide ~~clauses~~ necessary matters ~~for the assignment~~ concerning the dispatch of officials of the Government of Japan (hereinafter referred to as "the GOJ") to the Government of the Ryukyu Islands (hereinafter referred to as "the GRI") ~~in connection with such personnel exchange scheme between the GOJ and the GRI~~ which will be conducted as a part of the personnel exchange program between the GOJ and the GRI as recommended by the Advisory Committee to the High Commission of the Ryukyu Islands in its recommendation No. 35, "Promotion of Personnel Exchange," and other related recommendations.

2. Decision of ~~the Assignment~~ the Dispatch ~~An exchange~~ of ~~government~~ the GOJ officials ~~between the GOJ and~~ to the GRI will be conducted in consultation with the Government of the United States of America at the request of the GRI and in accordance with the GOJ recommendations.

~~The GOJ will shall decide the Offic~~

3. The selection of the GOJ officials to be dispatched to the GRI will be made by the GOJ upon the request of the GRI after consultation with the USCAR.

3. Status in the GRI of Officials assigned

The GRI shall employ, as duly appointed GRI officials, those who are ~~assigned~~ dispatched by the GOJ (hereinafter referred to as "officials assigned") ~~the dispatch~~ "the dispatched Officials") in accordance with item 2 above.

4. Salaries and Travel Expenses for the Dispatched Officials ~~assigned~~

(i) Of the ~~compensations for the~~ allowances to be paid to the dispatched officials ~~assigned~~, the GOJ shall pay ~~salary~~ salaries, ~~entrance additional pay~~, family allowance, premium pay, tri-annual allowance, and diligence allowance which are provided for in the Law concerning Compensation of Employees in the Regular Service (Law No. 95, 1950) and duty area allowance which is provided for in the Law for the Establishment of the Prime Minister's Office (Law No. 127, 1949).

(ii) The GRI shall pay compensations which are provided for in the laws of the GRI pertaining to compensations for its officials, other than compensations which correspond to those compensations listed in item (i) above.

(iii) Of travel expenses for the officials assigned, expenses for going to assume a new post and for returning to Japan proper after resignation shall be covered by the GOJ, and travel expenses of other kinds by the GRI.

5.

5. Service-connected Accident Compensations and Welfare for the Officials assigned

(i) The service-connected accident compensation which should happen on the officials assigned in the course of performing their duties shall be made by the GOJ and the corresponding compensation system of the GRI shall not be applicable.

(ii) In regard to welfare matters for the officials assigned, such as mutual benefit associations, the system which is currently applied to the GOJ officials shall be applied to and, that of the GRI shall not be applicable.

(iii) Housing for the officials assigned shall be furnished individually under consultations between the GOJ and the GRI.

6. Notification of Matters in Personnel Records

The GOJ and the GRI shall notify to each other personnel records of the officials assigned.

7. Questions of Interpretations and Others

In case any questions should arise in interpretation of clauses provided in this Memorandum or any need

for

for more detailed arrangements should arise, the GOJ and the GRI ~~and the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands~~ shall discuss toties quoties with each other.

Director
Special Areas Liaison Bureau
Prime Minister's Office
Government of Japan

Director
General Affairs Department
Government of
the Ryukyu Islands

Chief of Administration
United States
Civil Administration of
the Ryukyu Islands

Date:

三者並列にすべきこと

別添 2

Memorandum
concerning the Establishment and Operation
of Comprehensive Vocational Training Centres
(Draft)

~~1. Purpose~~

~~This Memorandum shall provide an agreement reached between the Ministry of Labour, Government of Japan (hereinafter referred to as "the Ministry of Labour"), and the Government of the Ryukyu Islands and an agreement reached at the 17th Meeting of the Japan-U.S. Consultative Committee on Okinawa, on the necessary arrangements for their co-operation, based on the Recommendation No. 18 of the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands concerning the establishment and operation of the Comprehensive Vocational Training Centre in Okinawa.~~

2. Establishment and Operation of the Facilities

(1) The Ministry of Labour shall take measures to have the Employment Promotion Projects Corporation of Japan proper to establish the unemployment insurance welfare facilities (hereinafter referred to as the "facilities") in Okinawa, according to Article 27-2 of the Unemployment Insurance Law of Japan proper and Article 19-1-11 of the Employment Promotion Projects Corporation Law, so as

to provide, mainly, vocational trainings in special technical skills to those who used to be insured persons under the Unemployment Insurance Law of Japan proper as well as to provide necessary vocational trainings to job-seekers and others.

(2) The Employment Promotion Projects Corporation shall entrust the Government of the Ryukyu Islands with the operation of the facilities.

(3) The Government of the Ryukyu Islands shall operate the facilities referred to in ~~the preceding~~ paragraph 2(2) above as the Comprehensive Vocational Training Centre as provided for in Article 6 of the Okinawan Vocational Training Law.

3. Expenses, etc.

(1) Expenses necessary for the acquisition and readjustment of the land required for the facilities as well as those necessary for electricity, gas, water, ~~and~~ drainage and other works shall be borne, in principle, by the Government of the Ryukyu Islands, and expenses necessary for the construction of the facilities and those for the installing and operation of equipments (machinery and tools) shall be borne, in principle, by the Employment Promotion Projects Corporation.

(2) Detailed arrangements for bearing expenses, which are

are referred to in paragraph 3 (1) above, shall be determined through consultation between the Government of the Ryukyu Islands and the Employment Promotion Projects Corporation.

(3) The properties attached to the facilities shall belong to either the Government of the Ryukyu Islands or the Employment Promotion Projects Corporation, which bears the expenses for the acquisition of the said properties.

(4) The Government of the Ryukyu Islands shall provide the land for the facilities to the Employment Promotion Projects Corporation free of charge.

4. Organisation and Staff

(1) The organisation and the fixed number of the staff of the facilities shall be determined by the Government of the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, taking into consideration such matters as the kinds of vocational trainings, the number of trainees and training periods.

(2) In addition to the officials specified in paragraph 5 below, The appointment and removal of the staff of the facilities shall be made by the Government of the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation.

5. Dispatch of Officials

(1) The Ministry of Labour shall take measures to have the Employment Promotion Projects Corporation dispatch the officials of the Corporation, who are required for the operation of the facilities, upon request from the Government of the Ryukyu Islands.

(2) The selection of officials to be dispatched by the Employment Promotion Projects Corporation to the Government of the Ryukyu Islands shall be made through consultation between the Employment Promotion Projects Corporation and the Government of the Ryukyu Islands.

(3) The decisions regarding such matters as appointment, salaries and workmen's compensation concerning the officials of the Employment Promotion Projects Corporation to be dispatched according to the provisions of the preceding sub-paragraphs 5(1) and 5(2) shall be made through consultation between the Employment Promotion Projects Corporation and the Government of the Ryukyu Islands.

6. Kinds of Vocational Trainings and Businesses Conducted

(1) The facilities will provide vocational trainings in accordance with the provisions of the Okinawan Vocational Training Law. The kinds of vocational trainings and businesses conducted in the facilities shall be as follows:

a. Vocational training of employees

b. Vocational training of job-seekers

c. Training of vocational training instructors

d. ~~Business related to the~~ Assistance ~~to be extended~~ to vocational trainings to be conducted by private industries

e. Other necessary business~~s~~ concerning vocational trainings.

(2) The trades to be taught at the facilities and the fixed number of trainees shall be decided by the Government of the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, taking into consideration such matters as the vocational training programs to be formulated ~~under~~ according to the provisions of Article 4 of the Okinawan Vocational Training Law and the ~~status of job seekers in the Ryukyu Islands.~~ situation of job-seeking in Okinawa.

7. Collection of Fees

~~The amount of expenses~~ Fees for workshop practices and other ~~fees~~ charges to cover to be collected from trainees ~~as~~ expenses required for vocational trainings shall be determined by the Government of the Ryukyu Islands ~~in~~ through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, ~~for each kind of training respectively.~~ for each kind of training respectively.

8. Tax Exemption

The Government of the Ryukyu Islands shall take measures ~~as~~ to ~~impose the following taxes on~~ exempt from the following taxes in Okinawa, the Employment Promotion Projects Corporation:

Income tax

Corporation tax

Automobile tax

City, town or village tax

Registration tax.

9. Notification concerning the Activities

The Government of the Ryukyu Islands shall inform the Employment Promotion Projects Corporation of the activities of the facilities every quarter of the business year.

10. Interpretation of the Memorandum and others

In case any doubts should arise ~~in~~ concerning the interpretation of the provisions of this Memorandum or in case any ~~for the concerning the matters above-per~~ necessity for making detailed arrangements concerning the matters provided for in the above paragraphs should arise, a settlement shall be sought through consultation between the Ministry of Labour and the Government of the Ryukyu Islands.

11. Validity of the Memorandum

~~This Memorandum shall come into force on the date~~ The arrangements contained in this Memorandum shall be implemented from the date when all of the following four parties have ~~signed~~ affixed their signatures and the signature

signature on the part of the Government of the Ryukyu Islands has been approved by the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands.

Director-General
Vocational Training Bureau
Ministry of Labour, GOJ

, 19

Director-General
Special Area Liaison Bureau
Prime Minister's Office, GOJ

, 19

Director
General Affairs Bureau, GRI

, 19

Director
Labour Bureau, GRI

, 19

Approved on behalf of the High Commissioner
of the Ryukyu Islands by

Director
General Affairs Department, USCAR

, 19

1. Purpose.

The purpose of this memorandum is to provide the arrangements which the Ministry of Labour, Government of Japan (hereinafter referred to as "the Ministry of Labour"), and the Government of the Ryukyu Islands have agreed to implement in cooperation for the establishment and operation of the Comprehensive Vocational Training Centre in Okinawa in accordance with the Recommendation No. 18 of the

Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands and the agreement reached at the seventeenth meeting of the Japan-U.S. Consultative Committee in Okinawa.

1月30日 在京米大
ダットンに手

沖縄の総合職業訓練所の設置運営に関する覚書（案）

（44. 12. 8）

1. 目　　的

この覚書は、琉球諸島高等弁務官に対する諮問委員会勧告第18号及び（「転業訓練の充実について」）第17回日米協議委員会における合意にもとづき、日本国政府労働省（以下「労働省」という。）と琉球政府が、その協力により沖縄に総合職業訓練所を設置運営することに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2. 施設の設置及び運営

(1) 労働省は、雇用促進事業団が沖縄において、本土失業保険法第27条の2及び雇用促進事業団法第19条第1項第11号の規定に基づき、主として本土失業保険法の被保険者であつた者に対して専門的な技能に関する職業訓練を行ない、あわせて求職者及びその他の者に対し必要な職業訓練等を行なうため失業保険福祉施設（以下「施設」という。）を設置するよう措置するものとする。

(2) 雇用促進事業団は、施設の運営を琉球政府に委託するものとする。

(3) 琉球政府は、前号の施設を沖縄職業訓練法第6条の規定に基づく総合職業訓練所として運営するものとする。

3. 費用の負担等

(1) 施設の用地の取得及び整地ならびに電気、ガス、給排水等の用地外工事に要する費用は、原則として琉球政府が、施設の建設、機械器具等の整備及び運営に要する費用は原則として雇用促進事業団がそれぞれ負担するものとする。

(2) 上記(1)に規定する費用の負担区分の細目については、琉球政府と雇用促進事業団が協議して定めるものとする。

(3) 施設の財産は、当該財産を取得する費用を負担した琉球政府又は雇用促進事業団の財産とする。

(4) 琉球政府は、雇用促進事業団に対し、土地を無償で使用させるものとする。

4. 組織及び職員

(1) 施設の組織及び職員定数は、職業訓練の種類、訓練生定員、訓練期間等を考慮して、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

(2) 下記5.に規定する職員のほか、施設の職員の任免については、琉球政府が雇用促進事業団と協議して行なうものとする。

5. 職員の派遣

(1) 労働省は、琉球政府の要請に基づき雇用促進事業団が施設の運営に必要な職員を派遣するよう措置するものとする。

(2) 雇用促進事業団から琉球政府へ派遣される職員の人選については、雇用促進事業団と琉球政府の協議によつて決定するものとする。

(3) 上記により派遣された雇用促進事業団職員の任用、給与、災害補償等については、雇用促進事業団と琉球政府が別に協議して定めるものとする。

6. 職業訓練の種類及び業務

(1) 施設においては、沖縄職業訓練法の規定に基づく職業訓練を実施するものとし、職業訓練の種類及び業務は、次のとおりとする。

イ 職用者職業訓練

ロ 求職者職業訓練

ハ 職業訓練指導員訓練

ニ 事業内職業訓練についての援助に関する業務

ホ 前各号に掲げるもののほか職業訓練に関し必要な業務

(2) 施設において行なう職業訓練の職種及び訓練生定員は、沖縄職業訓練法第4条の規定に基づく職業訓練計画、沖縄における求職者の状況等を考慮して、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

7. 実習負担金等の徴収

職業訓練生から、職業訓練に要する費用として徴収する実習負担金等の額は、職業訓練の種類別に琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるところによるものとする。

8. 雇用促進事業団への非課税

琉球政府は、雇用促進事業団に、次に掲げる税を課さないよう措置するものとする。

所得税

法人税

自動車税

市町村税

登録税

9. 事業実施状況の通知

琉球政府は、施設の事業実施状況について、毎事業年度の4半期毎に雇用促進事業団に通知するものとする。

10. 疑義解釈等

この覚書の規定に疑義が生じた場合、または細目とり決めの必要を生じた場合には、そのつど、労働省と琉球政府が協議して定めるものとする。

11. 覚書の効力

この覚書は、下記の四者のすべてが署名を終え且つ琉球政府の署名について米国民政府の承認が[redacted]与えられた日に効力を発する。

昭和　　年　　月　　日
日本国政府
労働省職業訓練局長

昭和　　年　　月　　日
日本国政府
総理府特別地域連絡局長

昭和　　年　　月　　日
琉球政府
総務局長

昭和　　年　　月　　日
琉球政府
労働局長

高等弁務官に代つて承認する。

昭和　　年　　月　　日
米国民政府
総務部長

K5.1.30
在京米大ダットーハニ
手交

Memorandum
concerning the Establishment and Operation
of Comprehensive Vocational Training Centres

(Draft)

1. Purpose

The purpose of this memorandum is to provide the arrangements which the Ministry of Labour, Government of Japan (hereinafter referred to as "the Ministry of Labour"), and the Government of the Ryukyu Islands have agreed to implement in cooperation for the establishment and operation of the Comprehensive Vocational Training Centre in Okinawa in accordance with the Recommendation No. 18 of the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands and the agreement reached at the seventeenth meeting of the Japan-U.S. Consultative Committee in Okinawa.

2. Establishment and Operation of the Facilities

(1) The Ministry of Labour shall take measures to have the Employment Promotion Projects Corporation of Japan proper establish the unemployment insurance welfare facilities (hereinafter referred to as the "facilities") in Okinawa, according to Article 27-2 of the Unemployment Insurance Law of Japan proper and Article 19-1-11 of the Employment Promotion Projects Corporation Law of Japan

proper

proper, so as to provide, mainly, vocational trainings in special technical skills to those who used to be insured persons under the Unemployment Insurance Law of Japan proper as well as to provide necessary vocational trainings to job-seekers and others.

(2) The Employment Promotion Projects Corporation shall entrust the Government of the Ryukyu Islands with the operation of the facilities.

(3) The Government of the Ryukyu Islands shall operate the facilities referred to in paragraph 2(2) above as the Comprehensive Vocational Training Centre as provided for in Article 6 of the Okinawan Vocational Training Law.

3. Expenses, etc.

(1) Expenses necessary for the acquisition and readjustment of the land required for the facilities as well as those necessary for electricity, gas, water, drainage and other works shall be borne, in principle, by the Government of the Ryukyu Islands, and expenses necessary for the construction of the facilities and those for the installing and operation of equipments (machinery and tools) shall be borne, in principle, by the Employment Promotion Projects Corporation.

(2)

(2) Detailed arrangements for bearing expenses, the principles of which are referred to in paragraph 3 (1) above, shall be determined through consultation between the Government of the Ryukyu Islands and the Employment Promotion Projects Corporation.

(3) The properties attached to the facilities shall belong either to the Government of the Ryukyu Islands or to the Employment Promotion Projects Corporation which bear the expenses for the acquisition of the said properties.

(4) The Government of the Ryukyu Islands shall provide the land for the facilities to the Employment Promotion Projects Corporation free of charge.

4. Organisation and Staff

(1) The organisation and the fixed number of the staff of the facilities shall be determined by the Government of the Ryukyu Islands in consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, taking into consideration such matters as the kinds of vocational trainings, the number of trainees and training periods.

(2) The appointment and removal of the staff of the facilities, except for those referred to in paragraph 5 below, shall be made by the Government of the Ryukyu Islands in consultation with the Employment Promotion Projects Corporation.

5. Dispatch of the Members of the Employment Promotion Projects Corporation

(1) The Ministry of Labour, upon request from the Government of the Ryukyu Islands, shall take measures to have the Employment Promotion Projects Corporation dispatch members of the Corporation, who are required for the operation of the facilities.

(2) The selection of the members to be dispatched by the Employment Promotion Projects Corporation to the Government of the Ryukyu Islands shall be made through consultation between the Employment Promotion Projects Corporation and the Government of the Ryukyu Islands.

(3) The decisions regarding such matters as appointment, salaries and workmen's compensation concerning the members of the Employment Promotion Projects Corporation to be dispatched according to paragraphs 5 (1) and 5 (2) above shall be taken through consultation between the Employment Promotion Projects Corporation and the Government of the Ryukyu Islands.

6. Kinds of Vocational Trainings and Businesses Conducted

(1) The facilities shall provide vocational trainings in accordance with the provisions of the Okinawan Vocational Training Law. The kinds of vocational trainings and

business to be conducted by the facilities shall be as follows:

a. Vocational training of employees

b. Vocational training of job-seekers

c. Training of vocational training instructors

d. Assistance to vocational trainings to be conducted by private industris

e. Other necessary business concerning vocational trainings.

(2) The trades to be taught at the facilities and the fixed number of trainees shall be decided by the Government of the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, taking into consideration such matters as the vocational training programs to be formulated according to the provisions of Article 4 of the Okinawan Vocational Training Law and the situation of job-seeking in Okinawa.

7. Collection of Fees

Fees for workshop practices and other charges to cover expenses required for vocational trainings to be collected from trainees shall be determined by the Government of the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation.

8. Tax Exemption

The Government of the Ryukyu Islands shall take measures to exempt the Employment Promotion Projects Corporation from the following texes in Okinawa:

Income tax

Corporation tax

Automobile tax

City, town or village tax

Registration tax.

9. Notification concerning the Activities

The Government of the Ryukyu Islands shall inform the Employment Promotion Projects Corporation of the activities of the facilities every quarter of the business year.

10. Interpretation of the Memorandum and others

In case any doubts should arise concerning the interpretation of the provisions of this Memorandum or in case any necessity for making detailed arrangements concerning the matters provided for in the above paragraphs should arise, a settlement shall be sought through consultation between the Ministry of Labour and the Government of the Ryukyu Islands.

11. Validity of the Memorandum

The arrangements contained in this Memorandum shall

be complemented from the date when all of the following four parties have affixed their signatures and the signature on the part of the Government of the Ryukyu Islands has been approved by the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands.

Director-General
Vocational Training Bureau
Ministry of Labour, GOJ

, 19

Director-General
Special Area Liaison Bureau
Prime Minister's Office, GOJ

, 19

Director
General Affairs Bureau, GRI

, 19

Director
Labour Bureau, GRI

, 19

Approved on behalf of the High Commissioner
of the Ryukyu Islands by

Director
General Affairs Department, USCAR

, 19

別添 1

北米オ一課長

總合転業訓練所の覚書について

45.6.19
米北1

本件訓練所開設に関する覚書に関し、米民政府労働局は訓練所設置が琉政の失業保険会計に赤字をもたらすおそれありとの観点から、この旨何らかの日米間の覚書の締結または總訓覚書中に記載すべき旨示唆したところ、(当時、労働省より沖縄事務所に派遣されていた野田事務官が、本件米側提案を特に異議なとなえないまに受取っていたため、問題がこじれていた経緯がある。)、さきに佐藤事務官より米民政府クラーク渉外局長に対し、總訓覚書と琉政失業保険の赤字問題は

別問題なる旨指摘し、再考方要望し(先方検討を約す)、さらに總理府に対しその follow up 方要望しておいたところ、今般対策方振興課溝口事務官が訪沖し、琉政社会保険局及び沖縄事務局担当官とともに米民政府労働局デービス部長に説明した趣で、その際の会談記録を入手した(別添 1 参照)。

右会談記録によれば、溝口事務官の説明中、労働省より確認を取付ける要ある点もあるので、同省担当官を交え、話合うことといたしたい。

別添 2-1

?

総合職業訓練所について（米民政府との接渉概要）

6月12日 於 米民政府労働局

出席者 Mr. Dudley D. Slavis, chief
Social Insurance Manpower Labor Standards
Division 米民政府労働局
琉球政府社会保険庁失業保険課 高吉企画係長
沖縄北方対策庁沖縄事務局 道宗 繁
〃 総務部振興課 溝口喜久

概要

1. 先づ溝口から、総合職業訓練所の設置運営に関する覚書の早急な締結の必要性を説明し USCARにおける現在の処理状況を質した。

2. Mr. Slavis は現在この件は USCARで検討中であるが USCARとしては この総合職業訓練所の設置のため琉球政府が出資した場合、琉政の失業保険会計が赤字となることを最も恐れているわけであり 用地取得費を出資する

として 失業保険収支はどうなるか質問した。

3. 高吉は 琉球政府が 総合職業訓練所用地費として出資したのは 1969年度 170837ドル、1970年度 527997ドル 計 698834ドルで これをもって 必要な用地の全てを取得し整地等附帯工事も完了した。この出資額を含めて 1970年度末の 失業保険会計は 約10万ドルの黒字となると説明した。

4. Mr. Slavis は 上記以外に 総合職業訓練所に対し琉政が出資することがないかを重ねて質問した。

5. 高吉は 上記金額が 琉球政府出資の全てであると答えた。また 溝口から 黒字約10万ドルは 今会計年度が残り少い 6月中旬現在で 6月分 保険金支払額を含めて計

算したものであるから信頼性の高いものであることを強調した。

5. Mr. Davis は現在失業保険会計が赤字になっていないことを確認できたからそれはよいとして今後復帰までの2年間にこれが赤字になる可能性もあるので若し赤字となった場合これをどう処理するのか質問した。

6. これに対し溝口から将来失業者がどれくらいになるか現在正確に予測することは困難であり赤字が生じた場合の処理の問題は失業保険会計のみに限定されるものでなく現に琉球政府一般会計に多額の赤字が生じているわけであり復帰の際一般会計の赤字をはじめ琉球政府全体の債務をどうするか

が日米間で討議される重要な問題となり、従って特に失業保険だけをとりあげその赤字の処理を総合職業訓練所の賞書に規定する必要はなく、規定しなくても復帰の際赤字があれば日米間で討議される問題となると答えた。

7. 首宗から沖縄が復帰すれば琉球政府の失業保険は当然本土の失業保険特別会計に吸収されることになり赤字が生じていてもそのなかで解決され、要するに沖縄の被保険者が不利にならないよう特別措置が講ぜられるもの考えられる。これは国会等で政府の見解として明確になっているものであると答えた。

8. Mr. Davis から日本政府と琉球政府のいずれもが

?

労働者に確認の要あり。(三)省二の方法でのなる旨説明あり。(土・川)

今後復帰までの間総合職業訓練所の他にこれに類する福祉施設を作る計画がないかを質した。

9 高吉は社会保険庁から労働局へ照会したところでは労働局としては総合職業訓練所の他に計画はないとはっきり回答があった旨説明した。首家から日本政府としてもそのような計画はないと答えた。溝口は今後はこの総合職業訓練所を如何によく運営するかに努力を傾ける予定であり他に計画はないと答えた。

10 Mr. Slavis は他に福祉施設の計画がないことを聞いて非常にうれしく思うと述べ琉球政府労働局に今回の説明内容を確認し労働局長の決裁を経て大使館を通じ回答したいただ東京の大使館から送られてきた覚書の草案には文書表現上2〜3ヶ所修正したいところがあるからこれを修正したうえ送り返す。修正は表現上の問題であって決して内容実質に影響を及ぼすものではないと述べた。

11 溝口から日本政府としては総合職業訓練所に対し今後指導員の派遣器材の提供等出来るだけの協力をしたいと考えており、そのため覚書について米民政府の承認がないとこれらの協力がすすめられないので可能な限り早急に回答してもらいたいと要請した。

12 Mr. Slavis は趣旨は了解したので早急に回答すると述べた。

秘
無期限

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

沖縄の総合職業訓練所の覚書について

45.8.11
米北1

1. 本件訓練所開設に関する覚書（1月30日在京米大使館に案文手交）に関し、当初 ~~USCAR~~ 米民政府 側は訓練所設置が琉政の失業保険会計に赤字をもたらすおそれありとの観点から、赤字を生じた場合の措置方につき別途日米間の覚書の締結または本件訓練所覚書中に何らかこの旨記載すべき旨示唆越したので（第仏省からの連絡）、去る5月訪沖した米北1佐藤（行）事務官より民政府クラーク渋外局長に対し、本件訓練所覚書と琉政失業保険の赤字問題は

本件計画実施に伴ない生じる一般性のある失保財政の赤字を復帰後は、本土の失保特別会計に当然に吸収するとのコミットメントは、赤字問題の取扱いが未来の現在なり得ない筈である。従って本件をもってすめる。ためには赤字が生ずることはあり得ないとの見通しを半側に説得することしかない。有馬

（以上米北一了承ずみ。赤字発生の余地ないというのが呼び出の一致した見解の由。）

GA-6 外務省

2

別問題なる旨指摘し、先方も検討方約した経緯がある。（別添1）。

（45/6/19付メモ？）

2. 6月対第六清口事務官及び琉政担当官等は民政府デーヴス社会保険部長を往訪し、(1) 失業保険の赤字は生じない、(2) たとえ生じた場合においても、沖縄復帰後本土失保特別会計に吸収され、その中で解決される、(3) 本件訓練所以外に新設の計画はない旨説明したところ、先方はこれを了解し、上記(3)の点につき琉政第仏局の確認取付けの上、在京米大使館経由覚書案を返送する旨約した趣である。（別添2-1, 2-2）。

GA-6 外務省

3、しかるところ、琉政労働局長は本件訓練所以外に、さらに琉政独自の訓練所1ヶ所の建設計画を有するとして民政府の再三の要請にも拘らず、同局長は往訪せず、沖縄事務局の説得により7月中旬琉政労働局担当官をしてデーヴィスを往訪せしめ、琉政としても本土政府と同様の考えであり、新設の本件訓練所以外に計画は有しない、旨説明せしめたところ、「デ」は今さら来ても遅いと感情的になり、覚書の内容に反対であると態度を示した趣である。（労働者説明及び別添3）。

4、去る8月6日訪沖した米北1

佐藤（嘉）事務官が沖縄事務局道宗調査官（労働省出身）と話合った際、同調査官はデーヴィスは琉政の失業保険金から用地買収費を出すことには反対であり、琉政としては本件覚書に署名するわけにはいかない、上記の趣旨を記載した琉政より日本側に書簡を発出する旨述べている旨説明したので、

佐藤より、この書簡が発出されてしまうと問題の解決が困難になるにつき、発出取止め方道宗調査官より民政府に申し入れるよう要請するとともに、琉政労働局長が本件促進方打合せのため近日中に上京するといわれるので、その

結果を聴取の上、東京において関係各省と今後の進め方につき検討することとしたい旨述べておいた。

5. なお、琉政労働局長は本月12日対策庁、13日労働省、14日雇用促進事業団（本件總合職業訓練所を主管）を夫々往訪の予定。

6. 今後の対策

当省としては前記5.の琉政労働局長と日本側関係者との協議を聴取した上、次のとおり取り進めることと致したい。

(1) 対策庁沖縄事務局より民政府当局に対し、本件計画が日米間で原則的に合意されているものであることを指摘し、米側の再来をうながす。

(2) 米民政府の指摘せる問題点については日本側よりはつきりした回答（本件を唯一の計画とする、失保財政の赤字は復帰とともに失保特別会計に吸収されてしまう）がなされており、米側もこれを一応了承した経緯もあり、今更計画に反対することは承服できない旨述べ、過去の経緯をめぐる感情論はこの際すてさり、計画の促進に協力方要請する。

米側が日本側案文にコメントがある場合に日本側もこれを検討する用意があることも指摘しておく。

(3) 要すれば、外交ルートを通じても（在京米大）、日本側の意向を説明し、本件計画の実現につき、協力を求める。

コメント参照（有）

GA-6　外務省

別添 2-2

45. 6. 13

職訓局管理課
清水補佐 殿

沖縄事務局 [illegible]

6月12日に課長にご連絡しましたように、総訓覚書問題について6月9日、12日と2回にわたって、デービス USCAR労働局社会保険部長と接衝しました結果次のことを口頭確認のうえ覚書締結について合意をみましたので連絡します。

① 琉政は69年度、70年度の計約69万9,000ドル以外は今後、失保基金から総訓関係に支出はしない。

② 日政は、復帰までの間、琉政をして失保基金から総訓はしとより福祉施設関係に支出をせしめるような指導はしない。

③ 復帰の際、日政は、沖縄失保の被保険者の利益を損うことのないような経過措置を講ずる努力をする。

なお、12日の接衝には、港口沖縄対策庁保長 高古琉政

日本政府

先保課係長も同行しました。

確認内容には若干問題もあるかと思いましたが

事態を進展させるためには止むを得ないとみて進めました。

テービスはウイシュガー別局長に話し正式に外交

ルートに乗せ締結にもっていくことを約束しましたので

間違いないと思います。

ただ字句修正を要するところが一部あったと思うと

彼はいっていましたので修正したもので締結ということに

(サインの箇所に不適当なものがあるともいっていました。)

ちょっと思いますが その修正は内容に変更を加

えるようなものではないといっていましたので申し添えます。

以上

日本政府

吉川可佐へ　　別添 3

総合職業訓練所の設置問題

7/29

労働省奥田事務官より次のとおり電話あり。

1. 本件については沖縄可佐と琉政当局がUSCAR Davis労働担当官と話合っているようだが、Davisは覚書の内容につき依然反対している(感情的になっている由、理由不明)ので一向に進展していない。

2. 7月中旬覚書を交換し、10月にはopenするはこびであるが、このままではどうしようもないので、~~今週中~~、沖縄可佐小林指導課長は今週中にでもUSCAR労働局長との話合いにもって行つスオがよいとの意向である。

3. 労働省としては是非とも予定通りはこびたいので、本件実現につき外務省より準備勉強を通ずるなんより側面的協力をお願いしたい。

GA 6　　外務省

失業保険の福祉施設について

45. 5. 14

1　保険制度が被保険者の偶発的な事故による所得の喪失を補填することを基本的な機能とすることはいうまでもないが、所得の補填に限定することなく、一歩すすんで保険事故そのものの防止と解消を図ることも保険事業運営の重要な課題である。

2　職業訓練施設は労働者に技能習得させることにより、失業の予防と、再就職の促進を図る機能を有するもので失業保険の福祉施設として設置運営するにふさわしいものである。本土の失業保険では、昭和28年度にはじめて失業保険福祉施設として総合職業訓練所(8所)等が設置され、以来、失業保険施設は年々拡充強化され(30年8月失業保険法の一部改正により、あらたに福祉施設に関する一章が追加された)45年度予算では65,763百万円(うち職業訓練関係10,612百万円 総訓86校)となっている。

3　沖縄においても1958年失業保険法が制定され、第四章に福祉施設の規定が設けられ「政府は、失業の予防、就職の促進その他被保険者及び被保険者であった者の福祉の増進を図るための必要な施設を行なうことができる」旨規定されている。

4. 一方、沖縄においても本土と同様技能労働者の不足が目立っており、職業訓練に対する要望は増大している。今後沖縄経済の工業化の進展を考慮すると職業訓練による技能労働者の養成確保は一段と増大するものと考へられる。このため、1969年5月本土の旧職業訓練法とほぼ同内容の職業訓練法が制定されたところであるが、職業訓練の実施状況は極めて低調であり、本土の水準に比し著しく立ち遅れている。また、最近沖縄では軍関係高職者が多発しており、今後も大量の高職者が発生することも見込まれるところである。このため本土同様失業保険福祉施設として早急に専門的技能を付与する職業訓練施設を設置し、沖縄経済の振興と多発する失業者の就職促進を図る必要がある。しかし、職業訓練所の設置については、多額の資金が必要なこと等にかんがみ沖縄失業保険の財政状況等を考慮し、本土失業保険の福祉施設として機械、建設費及び運営費等の経費を負担(昭和44年度～46年度 施設整備費14億円 運営費28億円)し、実質的な財政援助を行なうこととしているものである。

(注)

(1) 日米琉諮問委員会から高等弁務官に対し、昭和43年9月30日付勧告第18号により、沖縄に職業訓練所を設置する必要があり、また

その設置のために日本政府から提供される協力について便宜を図るよう勧告している。

(2) 昭和44年1月13日付日米協議委員会第17回会合において米側より日本側に対し沖縄援助計画の一環として職業訓練所の建設について要望があり、日本側はこれに対し、雇用促進事業団の昭和44年度事業計画の一環として実施する旨付言し米側もこれを了承している。

(3) 職業訓練実施状況

	所数	職種数	訓練生数(延)
沖縄	2所	14職種	712人
本土	428校	2,417訓練科	130,435人

5. 沖縄失業保険勘定の収支見通しは別紙のとおりであり福祉施設に相当額を充当しても保険給付に支障を来たすことは考へられない。

琉球政府社会保険特別会計失業保険勘定収支見込

琉政社会保険庁
(1970.5.13)

区分	1969年度(決算) ドル	1970年度(予算) ドル	1971年度(推計) ドル	1972年度(推計) ドル	1973年度(推計) ドル	備考
(収入)	2,264,117.26	2,474,498	2,783,637	3,208,812	3,580,146	
保険料収入	1,569,856	1,786,118	2,036,632	2,288,069	2,583,524	賃金アップ 10.0% 被保険者増 3.7%
一般会計受入	55,000	342,611	507,101	652,210	728,069	
その他	639,261.26	335,769	239,804	268,533	268,533	
(支出)	2,264,117.26	2,474,498	2,783,637	3,208,812	3,580,146	
保険給付費	1,314,312.86	(294,943) 1,476,881	2,291,958	2,810,184	3,143,715	給付額アップ 10.0% 初回受給率 4.0%
福祉施設費	751,069	(199,680) 731,789	30,000	50,000	50,000	
その他	179,753.40	216,671	157,203	200,622	225,564	(注) 1970年度支出欄中福祉費は予備費使用額で内数
予備費(剰余)	18,982	(△494,629) 49,157	304,476	148,006	160,867	
(剰余金)	18,982	49,157	304,476	148,006	160,867	
積立金合計	5,745,615.23	5,794,772.23	6,099,248.23	6,247,254.23	6,408,121.23	

取扱注意

条約課長　アメリカ局長
法規課長　参事官
北米第一課長

2ヒ1 北大、米へ

沖縄の総合職業訓練所の覚書について

45.8.17
米北一

8月15日(土) 仲松琉政労働局長及び石田労働省職業訓練局管理課長等は

当省に来訪（米北1佐藤事務官及び吉川応接）、(1) 仲松局長より、本件に関

する米国民政府労働局担当官の反対が強く、現地においては解決の見込みがないので、

本件を外交チャネルを通じ交渉ありたい旨要請があり、(2) ~~当省より~~ これに対し当方より、外交チャネルに

乗せる前にもう一度琉政より高等弁務官または民政官に折衝ありたい旨述べた

ところ、(3) 琉政、労働省、対等方ともこれを了承し、(4) 仲松局長は、折衝は来週

労働省側は、今後二想される軍労解雇者の問題を人間にお言うので
安定の生ずる一の能性をしとしているのか？

GA-6　外務省

1949

2

早々行なうべき旨、その結果は沖縄事務局を通じ本土政府に連絡する旨約した。

なお、先方の説明及び当省の回答要旨下記のとおり。御参考まで。

記

1. 仲松局長より、米国民政府デーヴィス社会保険部長は依然本件覚書に署名

することに反対であり、民政府としては署名しないようウインジャー労働局長に意見書を

申達したと述べ、その理由として、(1) 琉政の失業保険特別会計より本件総合訓練所

の用地買収費を支出することは認め難く（失保会計に赤字を出す）、(2) 今後予想

される軍労務者の解雇に見合う失保剰余金

GA-6　外務省

を確保することが必要であり、(3) 失保会計より支出した福祉施設費の一般会計への振り替えを計るべきであるとの点を挙げ、民政府は日本政府に対し、異名には反対であり、失保会計に赤字を生じた場合には日本政府がこれを補填することを要求する文書を発する考えである旨述べていると説明した。

2、仲松局長はさらに、琉政としては (1) 本件總訓(建設計画)は日米琉諮問委の勧告及び日米協議委における米側要請に基づいたものであり、(2) 琉球失業保険法では、福祉施設費は失保会計より支出可能であり、民政府は本件總訓の

敷地買収費の一部たる20万ドルを失保会計よりの支出を認めたにも拘らず、残額の支出には反対をとなえ、全額一般会計より支出すべしというのは納得できず、(3) 琉政はさらに High level での交渉を行なうべく、自分(仲松局長)は上京前手配してあるが、これがかえって事態を悪化させてはまずいと考え交渉前に本土政府側の意向を聴取した上で方針を決定したいと考えていた旨述べた。

3、これに対し佐藤事務官より、(1) ~~外務省は最近の本件に関する日米琉間の話合いの詳細を承知していなかったので、~~ 先般自分(佐藤)が他用をもって訪沖した際沖縄事務局の本件担当官たる道宗

調査官より事情を聴取したところ、上記1、2、の仲松局長説明と同様の趣旨の説明を受けた。(2) よって、同調査官に対し米側から書簡が発出されてしまうと問題の解決が困難になるにつき、発出取止め方同調査官より民政府に申し入れるよう要請するとともに、上京する仲村局長より琉政側の考え方等聴取の上関係各省と今後の進め方につき検討することとしたい旨述べておいた。(3)

その後 8月14日の当省と対第六との定例連絡会議における協議の結果 (4)

民政府担当官が反対しているのに今直ちに在京米大使館に申し入れることは

沖縄財政の新字問題全般を念頭に不ぐ処理すべきもの。

内部干渉ととられるおそれもあるので、(5) 琉政より高等弁務官または民政官という High level で再度折衝せしめ、この結果により外交チャネルにより取上げるかどうか検討することに意見の一致をみたので、琉政においてもこの方向で努力されたい旨述べたところ、琉政、労働省及び対第六もこれを了承し、(6)、仲松局長は来週(8月17日以降)早々折衝するよう直ちに現地琉政に電話する旨約した。

4、労働省石田課長より、(1) 琉政の失保会計は健全であり、(労働省専門家の検討によっても)赤字は生じないとのことである旨別添統計に基づき説明の後

(2) 米民政府は琉政の資金運用部資金勘定がカラになっており（各種特別会計剰余金は本土と同様、本勘定に繰り入れることになっている）、他方失保会計の福祉施設費支出額は69年及び70年（推定）は40%に達しているので（本土は12%で押えている）、米側は赤字云々を懸念しているのであらうと考える（70年の失保会計剰余金は590万ドルもある）、(3) しかし總訓の問題は資金運用部資金勘定とは別個の問題であり、また今後本件總訓敷地買収費以外に福祉施設計画はない（仲松局長確認）旨強調して、米側を説得することとし、(4) 3年間に亘る

失保会計からの福祉施設費の既支出分を一般会計に振り替えるとの米側の要求には応じられないとのわが方考え方を傳えるべきであり、(5) 另仂省としては、本件總訓の10月開所に備え、大蔵省のドル送金許可の取付け、機械類の送付等手滴済みにつき、外務省の協力を願う旨述べた。

（仲松局長からも異言うべきか照会があった）

失業保険財政状況

1970.9.6

社会保険庁失業保険課

年度	歳入 保険料	政府負担金	運用収入	諸収入	計	歳出 保険金	福祉施設費	諸支出金	事務費	計	差引剰余金	累積剰余金計
1960	258,662.[illegible]	0	0	0	258,662.[illegible]	0	0	0	0	0	258,662.[illegible]	
1961	409,406.97	14,791.93	0	0	424,198.90	43,594.17	0	0	0	43,594.17	380,604.73	638,662.[illegible]
1962	762,457.93	63,836.[illegible]	0	75.97	826,368.90	157,790.20	0	797.61	0	158,587.81	667,781.09	1,306,443.[illegible]
1963	860,303.[illegible]	68,000.[illegible]	108,593.24	125.49	1,036,962.[illegible]	287,300.43	0	1,300.00	0	288,600.43	748,362.[illegible]	1,897,806.97
1964	923,936.19	99,561.[illegible]	91,196.97	10,539.[illegible]	1,125,176.18	304,554.90	0	11,760.[illegible]	53,090.14	419,403.37	705,772.81	2,477,695.[illegible]
1965	853,749.76	121,109.[illegible]	300,617.50	7,661.47	1,183,138.[illegible]	436,499.37	0	4,955.50	100,351.07	541,806.[illegible]	641,332.[illegible]	3,183,027.18
1966	976,340.[illegible]	148,370.[illegible]	174,519.57	6,556.87	1,305,[illegible].10	198,304.41	0	4,570.72	98,610.[illegible]	301,485.93	814,399.7[illegible]	3,713,327.79
1967	1,093,667.[illegible]	279,[illegible].[illegible]	343,096.98	2,[illegible].30	1,713,609.[illegible]	559,997.[illegible]	0	853.07	110,651.91	671,502.[illegible]	1,065,7[illegible]	4,912,796.90
1968	1,259,969.71	367,[illegible].[illegible]	453,634.70	19,300.66	2,156,595.07	910,445.58	1,561.11	1,113.72	153,269.00	1,066,[illegible].41	944,670.66	5,857,[illegible].90
1969	1,579,362.69	65,000.[illegible]	346,945.[illegible]	3,[illegible].307.[illegible]	2,360,717.60	1,314,[illegible].[illegible]	751,389.[illegible]	767.45	144,149.00	2,344,485.[illegible]	19,6[illegible].87	5,976,152.56
1970	1,937,502.	352,611.	257,389.00	9,500.[illegible]	2,657,[illegible]	1,639,784.	692,787.	364.00	3,[illegible]	2,[illegible]	102,946.	6,245,[illegible]
積立金												6,554,[illegible]

(注) ① 1968年度剰余金(¥914,670.66)は¥270,000を1969年度に繰入れ使用しているため¥644,670.66となる。

② 1970年度は、決算前の暫定数である。

③ 1971年度剰余金(積立金)は¥6,554,7[illegible]である。

○ 割さん。 file 4日対策庁との連絡会議の際を方利入手。

総合職業訓練所覚書交渉の経過（琉球政府労働局長の上京以後）

1. 関係省庁と琉球政府労働局長の合議

8月18日 上京中の仲松琉球政府労働局長を交え 外務省で関係省庁（外務省 労働省 沖縄北方対策庁）が打合せを行なった。その結果、本交渉は外交チャンネルに移す前に沖縄現地において 琉球政府及び USCAR の最上層部に上げて交渉し解決を図るとの結論になった。

2. 行政主席と副民政官の会談

フィアリー民政官が18日からワシントン出張中につき 代りに8月20日 行政主席が他用もあり 副民政官と合いこの問題を話合った。その際副民政官はこの問題は相方の労働局長で話合ってもらいたい旨の回答をした。

3. 仲松とウィシンガーの会談

9月1日 この結果に基づき 仲松労働局長が民政府労働局長と合い交渉した。その席上 民政府側から 1) 失業保険特別会計から既に支出した総訓用地代を一般会計から補償すること 2) 将来 失保特会に赤字が生じた場合 日本政府がそれについて責任を持つことを文書で確認したいとの発言があり これに対し仲松局長は 1) については琉政一般会計の財政事情から不可能である 2) については復帰後 琉政の失保特会は当然本土の失業保険に吸収されるものであるからその必要はないし 復帰前は本土と沖縄がそれぞれ別の法律に基づき運用しているのであるから現時点で民政府発言主旨の文書をだすことは不適切であると答え 結論がでなかった。米側は2日午後5時までに結論を回答する約束した。

4 米民政府の回答

米側から約束の2日午後5時までに回答がなかったので 3日午後 仲松労働局長が電話で照会したところ ウィシンガーから代理を通して 前記3の米側主張条件に基づき日本政府と交渉するよう 在日米大使館に文書を発出したとの回答があった。

デーヴィス部長の由。

B-4 大昭和3Sコッピー19号（100枚入り）

沖縄總合職業訓練所の設置について
の書簡(案) ―労働省― 45.10.6現在

沖縄總合職業訓練所の設置に伴ない、琉球政府失業保険特別会計予算をもって当該訓練所敷地を取得したが、これがために将来琉球政府失業保険給付が不可能となった場合は、復帰時または復帰後に敷地取得に要した金額を限度として日本国政府において善処することとする。

廃案

(琉球政府失業保険特別会計赤字補填に関する岸沖縄事務局長発フィアリー民政官あて書簡)(案)

昭和45年10月 日

米国民政府
フィアリー民政官殿

私は、昭和45年10月 日に~~日本~~総理府沖縄・北方対策本部長官及び労働省職業訓練局長と琉球政府総務局長及び労働局長との間において署名し、琉球政府の署名について米国民政府総務部長が高等弁務官に代って承

認した「沖縄の總合職業訓練所の設置に関する覚書」に言及し、日本国政府を代表して次のとおり申し述べます。

1、日本国政府は、琉球政府失業保険特別会計の財政状況は、最近3ヶ年の実績よりみても健全であり、たとえ本件總合職業訓練所の設置に伴なう土地購入費を本件特別会計より支出しても、赤字は生じ得ないとの見解を有しており、日本国政府は、説明資料を付して、この見解を在京米国

大使館及び米国政府に通報した次第である。

2、しかしながら、米国民政府は依然として沖縄の失業者が当然の権利として享受し得べき失業保険金を受給出来なくなる事態の発生を懸念し、本件特別会計に赤字を生じた場合には、日本国政府がこれを補塡すべきであるとの態度をとっている。

3、日本国政府は、上記1.に述べた如く、本件特別会計は健全であり、赤字は

生じないとの見解を有するものであり、

また沖縄の施政権が米側にある復帰前において、赤字が生じた場合にこれを補填する旨米側に対し確約する立場にはない。

しかしながら、本件特別会計が枯渇し、または枯渇するようになり、このため琉球政府が全ての失業保険受給資格者に対し失業保険金の全額を支払うことが出来なくなるような場合には、日本国政府は、失業保険

金の支給に支障を来たさないよう何らかの援助を供与する旨ここに通報する。

4. なお、日本国政府は、沖縄復帰後における本件特別会計を如何に取扱うかについては、日本国政府の問題として処理する考えであるので、右申し添えて通報する。

取扱注意

沖縄の総合職業訓練所用土地について

45.10.3
米北1

I. 敷地面積

1. 本館、実習場、教室用敷地

44年7月14日登記	7,148坪	170,837.20ドル
45年2月5日 〃	11,456	272,798.40
45年7月10日 〃	1,169	50,452.52
小計	19,773	495,088.12

2. (1) 職員宿舎用敷地

45年7月10日登記	1,000	26,403.36

(2) 寄宿舎用敷地

45年7月10日登記	998	26,350.56
小計	1,998	52,753.92
計	21,771	547,842.04

3. 囲障、出入口敷地 146,967.00

合計 694,809.04

II. 建物建設状況

1. 本館(1,200平方米)
2. 教室(400 〃)
3. 実習場(2,000 〃)

} 殆ど完成

4. 職員宿舎(11戸) 半ば完成
(校長用宿舎 1
課長用宿舎 2
一般職員用宿舎 8)

以上の建設至費 500,000ドル

III. 訓練所所在地

沖縄本島 北谷村 吉原

IV. 訓練課目

	定員	応募者数(8.30現在)
1. 板金	25	19
2. 自動車整備	25	33
3. 建築	25	10
4. 塗装	25	14
計	100	76

(注) 10月1日現在では、何れも定員を大巾に超過している由。

V. 今後の増設予定訓練課目

1. 機械
2. 鎔接
3. 配管
4. 木工

VI. 土地購入者

琉球政府社会保険庁

(注) 社会保険特別会計より支出するものは
I. の土地購入費55万ドルのみ。

出所 労働省職業訓練局管理課が
沖縄事務局に照会した結果による。

アメリカ局長
参事官
北米第一課長
条約課長

秘
無期限

沖縄の総合職業訓練所の設置に
伴なう失業保険金支出に関する書簡(案)
(対第六長官発民政官あて)

45.10.7
米北1(吉川)

準備委日本政府代表事務所より別添2.
来電の通り(沖縄来電第400号及び第401号)

(沖縄来往信電)

報告越した件に関し、対第六は、当省
及び労働省の意見を聴取の上、山野対
第六長官発フィアリー民政官あて書簡の形
式をもって日本政府側の確約を通報する
こととし、対第六案の~~及び労働省協議に係わる~~
別添1.の如き書簡案を送付越し、本日中
に当省の見解につき、回答ありたい旨要
請越した。(労働省は本案につき、一応了承して
いる趣)

2346

しかしながら本件の意図する赤字補填の可能性につき示唆することを回避するため、次のコメントを通報することといたしたい。

記

1、何れにしても、本件詳細について大蔵省に事前に協議願いたい。

2、書簡案2項の末段「もし万が一……用意のあることを申し述べます」の文言を次のとおり訂正ありたい。

「もし琉球政府が覚書案(3)の(ハ)に基づく全費を失業保険特別会計より支出したため、失業保険給付を行なうことが不可能となるような事情が

万一生じた場合には、日本政府は米側と協議する用意のあることを申し述べます。」

別添1

前略

（書翰案）

沖縄総合職業訓練所の設置運營に関する覚書(案)3の(1)に関連し、琉球政府が、当該施設の用地の取得等の経費に、沖縄失業保険特別会計の積立金の一部をあてたことについて、貴官は、このような支出は将来の失業保険給付に備えるための積立金の運用として適当でないという見解を有しておられるように承知しておりますが、この件について、小官は、次のような見解を有するものであります。

1、当該支出は、沖縄失業保険法三六条に基づく「福祉施設」として設置され、かつ、沖縄職業訓練法六条の「総合職業訓練所」として運營される沖縄総合職業訓練所の施設の設置のために支出されたものであり、本土の失業保険においても全く同様な目的のために失業保険特別会計の積立金の一部が活用されていること。

"IDEAL" MARUZEN

2. 沖縄失業保険特別会計が沖縄総合職業訓練所の施設の用地の取得しますために支出した欲は六九四、〇六六円であり、沖縄失業保険特別会計の積立金の現況、収支、及び将来予想される失業保険給付の見込を考慮した場合にあっても、当該積立金の一部の流用が、失業保険給付基金の運営を不可能にする程度のものでないこと。

以上のような次第で、小名は、流弾取付が賞罰(法)3の(1)の名義に沖縄失業保険特別会計の積立金の一部をもちいたことは、制度上及び特別会計積立金運営上も不当なものなどいう見解を有するものでありますが、異なる指摘されてありますこと、もし、一が一、当該支出を行なうことにより、将来にあって、沖縄失業保険特別会計、失業保険給付を行なうことが不可能となる事態が生じた場合には、

「沖縄の施設のことに六四、〇九六円」
別添左記内事業所(本紙1)

覚書(案)3の(1)に基づき琉球政府から支払われる保険給付及び、当該支払れによって直接生じる失業保険給付基金の支障を、日本政府の責任において対処する用意があることを申し述べるものであります。

敬具

山野幸吉
沖縄・北方対策庁長官

ロバート・A・フェアリー 殿
米国民政府民政官

"IDEAL"

MARUZEN

失業保険法（民立法）

第三十六条　政府は、失業の予防、就職の促進その他被保険者及び被保険者であった者の福祉の増進を図るため必要な施設を行なうことができる。

2、前項の施設は、被保険者及び被保険者であった者の利用に支障がなく、かつ、その利益を害さない場合に限り、これらの者以外の者に利用させることができる。

職業訓練法（民立法）

第六条　総合職業訓練所は、次の業務を行なう。

一、
二、
三、
四、
五、

2、総合職業訓練所は、政府が設置する。

失業保険法

第二十七条の二　政府は、失業の予防、就職の促進その他被保険者及び被保険者であつた者の福祉の増進を図るため必要な施設を行うことができる。

②前項の施設は、被保険者及び被保険者であつた者の利用に支障がなく、かつ、その利益を害さない場合に限り、これらの者以外の者に利用させることができる。

③政府は、雇用促進事業団法の定めるところにより、第一項の施設の一部を雇用促進事業団に行なわせるものとする。

雇用促進事業団法

第十九条　事業団は、第一条の目的を達成するため、次の業務を行なう。

一、

二、

十一、前各号及び第三項各号に掲げるもののほか、労働者の就職の援助に関し必要な業務を行なうこと。

45/10/8

岸課長 → 千葉課長 [illegible]

[illegible] 45 X-8

[illegible] ① Clark, Wissinger

[illegible] 当初者 [illegible]

[illegible] 当初者 [illegible]

[illegible] Side letter [illegible]

[illegible] 「[illegible]」 [illegible]

[illegible] 「[illegible]」 [illegible]

[illegible] GOJ [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible] — MOL OK

[illegible] GRI と [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible]

GOJ 一般 [illegible]

[illegible]

GB-3 外務省

② [illegible] GRI [illegible] 「[illegible]」

[illegible] GRI に [illegible]

[illegible] GOJ [illegible]

「GRI [illegible] [illegible] [illegible]」 + GOJ 「[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]」

GB-3 外務省

~~[illegible]~~

45/10/7 [illegible]

~~[illegible]~~

~~[illegible]~~

~~[illegible]~~

問答案

沖縄総合職業訓練所の設置理答に関する覚書(第3の(1)に関連し、琉球政府が、当該施設の用地の取得等の至要に、沖縄失業保険特別会計の積立金の一部と あてたことにつゝて、要答は、このような支出は将来の失業保険給付に備えるための積立金の運用として適当ないという見解を有しあらわるように承知しありますが、この件につゝて、小官は、次のような見解を有するものであります。

1、当該支出は、沖縄失業保険法三六条に基づく「福祉施設」として設置され、かつ、沖縄職業訓練法七条の「総合職業訓練所」として運営される。沖縄総合職業訓練所の施設の設置のために支出されたものであり、本土の失業保険においても全く同様な目的のために失業保険特別会計の積立金の一部が活用されていること。

"IDEAL" MARUZEN

2. 沖縄失業保険特別会計が沖縄総合職業訓練所の施設の用地の取得等のために支出した額は六九四八〇万円であり、沖縄失業保険特別会計の積立金の現況、収支、及び将来予想される失業保険給付の見込を考慮した場合にあつても、当該積立金の一部の活用が、失業保険給付基金の運営を不可能にする程度のものでないこと。

以上のような次第で、小名は、流弾政府が受理書(第3の(1)の名義に沖縄失業保険特別会計の積立金の一部を与えたことは、制度上及び特別会計積立金運営上も不当なものでないという見解を有するものでありますが、異常に指摘されてありますこと、もし、不が一、当該事務を行なうにあり、特に、沖縄失業保険特別会計、失業保険給付を行なうことが不可能となる事態が生じた場合には、

覚書(主) 3の(1)に基づき 琉球政府のまちに
偽数の問題が、二当該まちによって直接生じた
失業保険給付基金の支障を、日本政府の責任
において対処する用意があることを申し出ているものであります。

敬具

山野幸三

沖縄、北大対まちの長官

ワイ 殿

米国民政府民政官

"IDEAL" MARUZEN

秘
無期限

条約課長

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

沖縄の総合職業訓練所設置に伴ひ
山野長官発フィアリー民政官あて書簡

45.10.28
米北1(吉川)

本件に関する10月26日付山野対第六
長官発フィアリー民政官あて書簡写を取寄
せましたので、別添の通り、御高覧に供します。
なお、右書簡は、沖縄来電第455号
と同文のものにつき、御参考までに申し添
えます。(実合済み)

(沖縄事務局を経由して送達した由)

Tokyo, 26 October 1970.

Dear Mr. Fearey:

The Japanese Government has been informed that the United States Government is unable to approve the use by the Ryukyu Government of the Unemployment Insurance Funds for its portion of the funding of the Vocational Training Center. Therefore, I wish to inform you that in case the Unemployment Insurance Special Account of the Ryukyu Government should become exhausted or be so nearly exhausted that the Ryukyu Government is unable to pay the Unemployment Insurance Benefits in full to all eligible workers when they are due, in order that this project may proceed, the Japanese Government requests that the United States Government approve the Memorandum authorizing this project with the understanding that the Okinawa-Northern Territories Agency will cope with the situation resulting from such shortfall as may arise in the said Account to the extent of the funds that have been withdrawn by the Ryukyu Government for this project.

Sincerely yours,

Kokichi Yamano

Kokichi Yamano,
Director,
Okinawa-Northern
Territories Agency.

Mr. Robert A. Fearey,
Civil Administrator.

沖縄の総合職業訓練所の設置運営に関する覚書 ~~(案)~~

45/11/4
訪問者より手交越した
~~(45.1.8)~~もつ

1. 目　的

追加分1

この覚書は、琉球~~政府~~列島高等弁務官に対する諮問委員会勧告第18号「職業訓練の充実について」及び第17回日米協議委員会における合意にもとづき、日本国政府労働省（以下「労働省」という。）と琉球政府が、その協力により沖縄に総合職業訓練所を設置運営することに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2. 施設の設置及び運営

(1) 労働省は、雇用促進事業団が沖縄において、本土失業保険法第27条の2及び雇用促進事業団法第19条第1項第11号の規定に基づき、主として本土失業保険法の被保険者であつた者に対して専門的な技能に関する職業訓練を行ない、あわせて求職者及びその他の者に対し必要な職業訓練等を行なうため失業保険福祉施設（以下「施設」という。）を設置するよう措置するものとする。

(2) 雇用促進事業団は、施設の運営を琉球政府に委託するものとする。

(3) 琉球政府は、前号の施設を沖縄職業訓練法第6条の規定に基づく総合職業訓練所として運営するものとする。

3. 費用の負担等

(1) 施設の用地の取得及び整地ならびに電気、ガス、給排水等の用地外工事に要する費用は、原則として琉球政府が、施設の建設、機械器具等の整備及び運営に要する費用は原則として雇用促進事業団がそれぞれ負担するものとする。

(2) 上記(1)に規定する費用の負担区分の細目については、琉球政府と雇用促進事業団が協議して定めるものとする。

(3) 施設の財産は、当該財産を取得する費用を負担した琉球政府又は雇用促進事業団の財産とする。

(4) 琉球政府は、雇用促進事業団に対し、土地を無償で使用させるものとする。

4. 組織及び職員

(1) 施設の組織及び職員定数は、職業訓練の種類、訓練生定員、訓練期間等を考慮して、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

(2) 下記5.に規定する職員のほか、施設の職員の任免については、琉球政府が雇用促進事業団と協議して行なうものとする。

5. 職員の派遣

(1) 労働省は、琉球政府の要請に基づき雇用促進事業団が施設の運営に必要な職員を派遣するよう措置するものとする。

(2) 雇用促進事業団から琉球政府へ派遣される職員の人選については、雇用促進事業団と琉球政府の協議によつて決定するものとする。

(3) 上記により派遣された雇用促進事業団職員の任用、給与、災害補償等については、雇用促進事業団と琉球政府が別に協議して定めるものとする。

6. 職業訓練の種類及び業務

(1) 施設においては、沖縄職業訓練法の規定に基づく職業訓練を実施するものとし、職業訓練の種類及び業務は、次のとおりとする。

イ 雇用者職業訓練

ロ 求職者職業訓練

ハ 職業訓練指導員訓練

ニ 事業内職業訓練についての援助に関する業務

ホ 前各号に掲げるもののほか職業訓練に関し必要な業務

(2) 施設において行なう職業訓練の職種及び訓練生定員は、沖縄職業訓練法第4条の規定に基づく職業訓練計画、沖縄における求職者の状況等を考慮して、琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるものとする。

7. 実習負担金等の徴収

職業訓練生から、職業訓練に要する費用として徴収する実習負担金等の額は、職業訓練の種類別に琉球政府が雇用促進事業団と協議して定めるところによるものとする。

8. 雇用促進事業団への非課税

琉球政府は、雇用促進事業団に、次に掲げる税を課さないよう措置するものとする。

所得税

法人税

自動車税

市町村税

登録税

9. 事業実施状況の通知

琉球政府は、施設の事業実施状況について、毎事業年度の4半期毎に雇用促進事業団に通知するものとする。

10. 疑義解釈等

この覚書の規定に疑義が生じた場合、または細目とり決めの必要を生じた場合には、そのつど、労働省と琉球政府が協議して定めるものとする。

11. 覚書の効力

この覚書は、下記の四者のすべてが署名を終え且つ琉球政府の署名について米国民政府の承認が与えられた日に効力を発する。

日本国政府 総理府~~特別地域連絡局長~~ 沖縄・北方対策庁長官 昭和　年　月　日	琉球政府 総務局長 昭和　年　月　日
日本国政府 労働省職業訓練局長 昭和　年　月　日	琉球政府 労働局長 昭和　年　月　日
~~高等弁務官に代つて承認する。~~ ~~昭和　年　月　日~~ ~~米国民政府~~ ~~総務部長~~	高等弁務官に代つて承認する。 ~~昭和　年　月　日~~ 米国民政府 総務部長 昭和　年　月　日

取扱注意

条約課長

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

~~法規課長~~

沖縄・総合職業訓練所に関する覚書きについて、

45.11.18

米北一(森本)

1. 対策庁振興課より、本件覚書きに関する USCAR 案を現地事務局にて、非公式に別添1のとおり入手したとして、外務省の検討方要請越した。
傍々、労働省職業訓練局管理課(新庄事務官)からも、上記訓練所赴任予定者の準備の都合もあり、早急に本覚書きの締結方切望している旨連絡あったので、在京米大からの正式通報を待たず、右 USCAR 案を至急検討することといたしたい。なお、日本案は別添2のとおり。

2. 上記 USCAR 案は、日本案に英語表現上の若干の修正を施しているが、(修正例は、日本案の該当例上部に( )書きで示した。)内容の実質的変更を示すものではないと認められる。

別添

総合職業訓練所覚書。現地担当官の交渉でまとまった

文案は同封のとおりです。貴課からOKあり次第直ちに

タイプ浄書すべく待期していますのでよろしく願います。

振興課　溝口

総　理　府

B−5 上質55ヶ（100枚天のり）

職業訓練局
市倉氏持帰り
14/3
USCAR案

MEMORANDUM
CONCERNING THE ESTABLISHMENT AND OPERATION
OF A COMPREHENSIVE VOCATIONAL TRAINING CENTRE

1. Purpose

The purpose of this memorandum is to state the cooperative arrangements which the Ministry of Labour, Government of Japan (hereinafter referred to as "the Ministry of Labour"), and the Government of the Ryukyu Islands agree to for the establishment and operation of the Comprehensive Vocational Training Centre in Okinawa in accordance with Recommendation No. 18 of the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands ~~and the agreement reached~~ at the seventeenth meeting of the Japan-U.S. Consultative Committee ~~in~~ on Okinawa.

2. Establishment and Operation of the Facility

(1) The Ministry of Labour shall take measures to have the Employment Promotion Projects Corporation of Japan proper establish the unemployment insurance welfare facility (hereinafter referred to as the "facility") in Okinawa, according to Article 27-2 of the Unemployment Insurance Law of Japan proper and Article 19-1-11 of the Employment Promotion Projects Corporation Law of Japan proper, so as to provide, mainly, vocational training in special technical skills to those who used to be insured persons under the Unemployment Insurance Law of Japan proper as well as to provide necessary vocational training to job-seekers and others.

(2) The Employment Promotion Projects Corporation shall entrust the Government of the Ryukyu Islands with the operation of the facility.

(3) The Government of the Ryukyu Islands shall operate the facility referred to in paragraph 2(2) above as the Comprehensive Vocational Training Centre as provided for in Article 6 of the Okinawan Vocational Training Law.

3. Expenses, etc.

(1) Expenses necessary for the acquisition and readjustment of the land required for the facility as well as those necessary for electricity, gas, water, drainage and other works shall be borne, in principle, by the Government of the Ryukyu Islands, and expenses necessary for the construction of the facilities and those for the installing and operation of equipment (machinery and tools) shall be borne, in principle, by the Employment Promotion Projects Corporation.

(2) Detailed arrangements for bearing expenses, the principles of which are referred to in paragraph 3(1) above, shall be determined through consultation between the Government of the Ryukyu Islands and the Employment Promotion Projects Corporation.

(3) The property attached to the facility shall belong either to the Government of the Ryukyu Islands or to the Employment Promotion Projects Corporation whichever bore the expense for the acquisition of said property.

(4) The Government of the Ryukyu Islands shall provide the land for the facility to the Employment Promotion Projects Corporation free of charge.

4. Organization and Staff

(1) The organisation and the fixed number of the staff of the facility shall be determined by the Government of the Ryukyu Islands in consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, taking into consideration such matters as the kind of vocational training offered, the number of trainees and training periods.

(2) The appointment and removal of the staff of the facility, except for those referred to in paragraph 5 below, shall be made by the Government of the Ryukyu Islands in consultation with the Employment Promotion Projects Corporation.

5. Dispatch of Members of the Employment Promotion Projects Corporation

(1) The Ministry of Labour, upon request from the Government of the Ryukyu Islands, shall take measures to have the Employment Promotion Projects Corporation dispatch members of the Corporation, who are required for the operation of the facility.

(2) The selection of the members to be dispatched by the Employment Promotion Projects Corporation to the Government of the Ryukyu Islands shall be made through consultation between the Employment Promotion Projects Corporation and the Government of the Ryukyu Islands.

(3) The decisions regarding such matters as appointment, salaries and workmen's compensation concerning the members of the Employment Promotion Projects Corporation to be dispatched according to paragraphs 5(1) and 5(2) above shall be taken through consultation between the Employment Promotion Projects Corporation and the Government of the Ryukyu Islands.

6. Kind of Vocational Training and Business to be Conducted

(1) The facility shall provide vocational training in accordance with the provisions of the Okinawan Vocational Training Law. The kind of vocational training and business to be conducted by the facility shall be as follows:

a. Vocational training of employees
b. Vocational training of job-seekers
c. Training of vocational training instructors
d. Assistance to vocational training being conducted by private industries
e. Other necessary business concerning vocational training.

(2) The trades to be taught at the facility and the fixed number of trainees shall be decided by the Government of the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, taking into consideration such matters as the vocational training programs to be formulated according to the provisions of Article 4 of the Okinawan Vocational Training Law and the amount of unemployment in Okinawa.

7. Collection of Fees

Fees for workshop operations and other charges to cover expenses required for vocational training to be collected from trainees shall be determined for each catagory by the Government of the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation.

8. Tax Exemption

The Government of the Ryukyu Islands shall take measures to exempt the Employment Promotion Projects Corporation from the following taxes in Okinawa:

Income tax
Corporation tax
Automobile tax
City, town or village tax
Registration tax.

9. Report concerning Activities

The Government of the Ryukyu Islands shall inform the Employment Promotion Projects Corporation of the activities of the facility every quarter of the business year.

10. Interpretation of this Memorandum and resolution of other issues

In case any doubts should arise concerning the interpretation of the provisions of this Memorandum or in case any necessity for making detailed arrangements concerning the matters provided for in the above paragraphs should arise, a settlement shall be sought through consultation between the Ministry of Labour and the Government of the Ryukyu Islands.

11. Validity of the Memorandum

The arrangements contained in this Memorandum shall be implemented from the date when all of the following four parties have affixed their signatures and the signature on the part of the Government of the Ryukyu Islands has been approved by the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands.

Director-General
Vocational Training Bureau
Ministry of Labour, GOJ

, 19

Director-General
Special Area Liaison Bureau
Prime Minister's Office, GOJ

, 19

Director
General Affairs Department, GRI
, 19

Director
Labour Department, GRI
, 19

Approved on behalf of the High Commissioner
of the Ryukyu Islands by

H.L. CONNER
Maj, AGC
Chief of Administration

Date _____

張恥訓

本
本
本
本
70

"MEMORANDUM CONCERNING THE ESTABLISHMENT AND OPERATION OF A COMPREHENSIVE VOCATIONAL TRAINING CENTER

"1. PURPOSE

THE PURPOSE OF THIS MEMORANDUM IS TO STATE THE COOPERATIVE ARRANGEMENTS WHICH THE MINISTRY OF LABOR, GOVERNMENT OF JAPAN (HEREINAFTER REFERRED TO AS "THE MINISTRY OF LABOR"), AND THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS AGREE TO FOR THE ESTABLISHMENT AND OPERATION OF THE COMPREHENSIVE VOCATIONAL TRAINING CENTER IN OKINAWA IN ACCORDANCE WITH RECOMMENDATION NO. 18 OF THE ADVISORY COMMITTEE TO THE HIGH COMMISSIONER OF THE RYUKYU ISLANDS ENTITLED "STRENGTHENING VOCATIONAL TRAINING," AND THE AGREEMENT REACHED AT THE SEVENTEENTH MEETING OF THE JAPAN-U. S. CONSULTATIVE COMMITTEE ON OKINAWA.

"2. ESTABLISHMENT AND OPERATION OF THE FACILITY

(1) THE MINISTRY OF LABOR SHALL TAKE MEASURES TO HAVE THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION OF JAPAN PROPER ESTABLISH THE UNEMPLOYMENT INSURANCE WELFARE FACILITY (HEREINAFTER REFERRED TO AS THE "FACILITY") IN OKINAWA, ACCORDING TO ARTICLE 27-2 OF THE UNEMPLOYMENT INSURANCE LAW OF JAPAN PROPER AND ARTICLE 19-1-11 OF THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION LAW OF JAPAN PROPER, SO AS TO PROVIDE, MAINLY, VOCATIONAL TRAINING IN

[redacted]

SPECIAL TECHNICAL SKILLS TO THOSE WHO USED TO BE INSURED PERSONS UNDER THE UNEMPLOYMENT INSURANCE LAW OF JAPAN PROPER AS WELL AS TO PROVIDE NECESSARY VOCATIONAL TRAINING TO JOB-SEEKERS AND OTHERS.
(2) THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION SHALL ENTRUST THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS WITH THE OPERATION OF THE FACILITY.
(3) THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS SHALL OPERATE THE FACILITY REFERRED TO IN PARAGRAPH 2(2) ABOVE AS THE COMPREHENSIVE VOCATIONAL TRAINING CENTRE AS PROVIDED FOR IN ARTICLE 6 OF THE OKINAWAN VOCATIONAL TRAINING LAW.
"3. EXPENSES, ETC.
(1) EXPENSES NECESSARY FOR THE ACQUISITION AND RE-ADJUSTMENT OF THE LAND REQUIRED FOR THE FACILITY AS WELL AS THOSE NECESSARY FOR ELECTRICITY, GAS, WATER, DRAINAGE AND OTHER WORKS SHALL BE BORNE, IN PRINCIPLE, BY THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS, AND EXPENSES NECESSARY FOR THE CONSTRUCTION OF THE FACILITIES AND THOSE FOR THE INSTALLING AND OPERATION OF EQUIPMENT (MACHINERY AND TOOLS) SHALL BE BORNE, IN PRINCIPLE, BY THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION.
(2) DETAILED ARRANGEMENTS FOR BEARING EXPENSES, THE PRINCIPLES OF WHICH ARE REFERRED TO IN PARAGRAPH 3(1) ABOVE, SHALL BE DETERMINED THROUGH CONSULTATION BETWEEN THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS AND THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION.
(3) THE PROPERTY ATTACHED TO THE FACILITY SHALL BELONG EITHER TO THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS OR TO THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION WHICHEVER BORE THE EXPENSE FOR THE ACQUISITION OF SAID PROPERTY.
(4) THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS SHALL PROVIDE THE LA
ND FOR THE FACILITY TO THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION FREE OF CHARGE.
"4. ORGANIZATION AND STAFF
(1) THE ORGANIZATION AND THE FIXED NUMBER OF THE STAFF OF THE FACILITY SHALL BE DETERMINED BY THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS IN CONSULTATION WITH THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION, TAKING INTO CONSIDERATION SUCH MATTERS AS THE KIND OF VOCATIONAL TRAINING OFFERED, THE NUMBER OF TRAINEES AND TRAINING PERIODS.
(2) THE APPOINTMENT AND REMOVAL OF THE STAFF OF THE FACILITY, EXCEPT FOR THOSE REFERRED TO IN PARAGRAPH 5 BELOW, SHALL BE MADE BY THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS IN CONSULTATION WITH THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION.
"5. DISPATCH OF MEMBERS OF THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION
(1) THE MINISTRY OF LABOR, UPON REQUEST FROM THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS, SHALL TAKE MEASURES TO HAVE THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION DISPATCH MEMBERS OF THE CORPORATION, WHO ARE REQUIRED FOR THE OPERATION OF THE FACILITY.
(2) THE SELECTION OF THE MEMBERS TO BE DISPATCHED BY THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION TO THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS SHALL BE MADE THROUGH CONSULTATION BETWEEN THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION AND THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS.
(3) THE DECISIONS REGARDING SUCH MATTERS AS APPOINTMENT, SALARIES AND WORKMEN'S COMPENSATION CONCERNING THE MEMBEJS OF THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION TO BE DISPATCHED ACCORDING TO PARAGRAPHS 5(1) AND 5(2) ABOVSSHALL BE TAKEN THROUGH CONSULTATION BETWEEN THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION AND THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS.
"6. KIND OF VOCATIONAL TRAINING AND BUSINESS TO BE CONDUCTED
(1) THE FACILITY SHALL PROVIDE VOCATIONAL TRAINING IN ACCORDANCE WITH THE PROVISIONS OF THE OKINAWAN VOCATIONAL TRAINING LAW. THE KIND OF VOCATIONAL TRAINING AND BUSINESS TO BE CONDUCTED BY THE FACILITY SHALL BE AS FOLLOWS:
A. VOCATIONAL TRAINING OF EMPLOYEES
B. VOCATIONAL TRAINING OF JOB-SEEKERS
C. TRAINING F VOCATIONAL TRAINING INSTRUCTORS
D. ASSISTANCE TO VOCATIONAL TRAINING BEING CONDUCTED BY PRIVATE INDUSTRIES
E. OTHER NECESSARY BUSINESS CONCERNING VOCA-

TIONAL TRAINING.
(2) THE TRADES TO BE TAUGHT AT THE FACILITY AND THE FIXED NUMBER OF TRAINEES SHALL BE DECIDED BY THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS THROUGH CONSULTATION WITH THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION, TAKING INTO CONSIDERATION SUCH MATTERS AS THE VOCATIONAL TRAINING PROGRAMS TO BE FORMULATED ACCORDING TO THE PROVISIONS OF ARTICLE 4 OF THE OKINAWAN VOCATIONAL TRAINING LAW AND THE AMOUNT OF UNEMPLOYMENT IN OKINAWA.
"7. COLLECTION OF FEES
FEES FOR WORKSHOP OPERATIONS AND OTHER CHARGES TO COVER EXPENSES REQUIRED FOR VOCATIONAL TRAINING TO BE COLLECTED FROM TRAINEES SHALL BE DETERMINED FOR EACH CATEGORY BY THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS

THROUGH CONSULTATION WITH THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION.
"8. TAX EXEMPTION
THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS SHALL TAKE MEASURES TO EXEMPT THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION FROM THE FOLLOWING TAXES IN OKINAWA:
INCOME TAX
CORPORATION TAX
AUTOMOBILE TAX
CTIS, TWON OR VILLAGE TAX
REGISTRATION TAX.
"9. REPORT CONCERNING ACTIVITIES
THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS SHALL INFORM THE EMPLOYMENT PROMOTION PROJECTS CORPORATION OF THE ACTIVITIES OF THE FACILITY EVERY QUARTER OF THE BUSINESS YEAR.
"10. INTERPRETATION OF THIS MEMORANDUM AND RESOLUTION OF OTHER ISSUES
IN CASE ANY DOUBTS SHOULD ARISE CONCERNING THE INTERPRETATION OF THE PROVISIONS OF THIS MEMORANDUM

OR IN CASE ANY NECESSITY FOR MAKING DETAILED ARRANGEMENTS CONCERNING THE MATTERS PROVIDED FOR IN THE ABOVE PARAGRAPHS SHOULD ARISE, A SETTLEMENT SHALL BE SOUGHT THROUGH CONSULTATION BETWEEN THE MINISTRY OF LABOR AND THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS.
"11. VALIDITY OF THE MEMORANDUM
THE ARRANGEMENTS CONTAINED IN THIS MEMORANDUM SHALL BE IMPLEMENTED FROM THE DATE WHEN ALL OF THE FOLLOWING FOUR PARTIES HAVE AFFIXED THEIR SIGNATURES AND THE SIGNATURE ON THE PART OF THE GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS HAS BEEN APPROVED BY THE UNITED STATES CIVIL ADMINISTRATION OF THE RYUKYU ISLANDS.

DIRECTOR-GENERAL
VOCATIONAL TRAINING BUREAU
MINISTRY OF LABOR, GOJ
(LINE FOR DATE)

DIRECTOR-GENERAL
OKINAWA-NORTHERN TERRITORIES AGENCY
PRIME MINISTER'S OFFICE, GOJ
(LINE FOR DATE)

DIRECTOR
GENERAL AFFAIRS DEPT, GRI

DIRECTOR
LABOR DEPT, GRI

(LINE FOR DATE)

(LINE FOR DATE)

APPROVED ON BEHALF OF THE HIGH COMMISSIONER OF THE RYUKYU ISLANDS BY
D. C. BUCKLEY
LTC, AGC
CHIEF OF ADMINISTRATION

1月30日在京米大
ダットノに手交

別添之、日本案

Memorandum
concerning the Establishment and Operation
of Comprehensive Vocational Training Centres

(Draft)

( ) : USCAR案の代替、追加または削除を示す。

1. Purpose

The purpose of this memorandum is to (state) provide the (cooperative) arrangements which the Ministry of Labour, Government of Japan (hereinafter referred to as "the Ministry of Labour"), and the Government of the Ryukyu Islands (agree) have agreed to (implement in cooperation) for the establishment and operation of the Comprehensive Vocational Training Centre in Okinawa in accordance with (the) Recommendation No. 18 of the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands ("strengthening vocational training") (entitled) and the agreement reached at the seventeenth meeting of the Japan-U.S. Consultative Committee (on) in Okinawa.

2. Establishment and Operation of the Facilit(y)ies

(1) The Ministry of Labour shall take measures to have the Employment Promotion Projects Corporation of Japan proper establish the unemployment insurance welfare facilit(y)ies (hereinafter referred to as the "facilit(y)ies") in Okinawa, according to Article 27-2 of the Unemployment Insurance Law of Japan proper and Article 19-1-11 of the Employment Promotion Projects Corporation Law of Japan

proper

proper, so as to provide, mainly, vocational training(s) in special technical skills to those who used to be insured persons under the Unemployment Insurance Law of Japan proper as well as to provide necessary vocational training(s) to job-seekers and others.

(2) The Employment Promotion Projects Corporation shall entrust the Government of the Ryukyu Islands with the operation of the facilit(y)ies.

(3) The Government of the Ryukyu Islands shall operate the facilit(y)ies referred to in paragraph 2(2) above as the Comprehensive Vocational Training Centre as provided for in Article 6 of the Okinawan Vocational Training Law.

3. Expenses, etc.

(1) Expenses necessary for the acquisition and readjustment of the land required for the facilit(y)ies as well as those necessary for electricity, gas, water, drainage and other works shall be borne, in principle, by the Government of the Ryukyu Islands, and expenses necessary for the construction of the facilities and those for the installing and operation of equipment(s) (machinery and tools) shall be borne, in principle, by the Employment Promotion Projects Corporation.

(2)

(2) Detailed arrangements for bearing expenses, the principles of which are referred to in paragraph 3 (1) above, shall be determined through consultation between the Government of the Ryukyu Islands and the Employment Promotion Projects Corporation.

(3) The properties attached to the facilities shall belong either to the Government of the Ryukyu Islands or to the Employment Promotion Projects Corporation whichever bore the expense for the acquisition of the said properties.

(4) The Government of the Ryukyu Islands shall provide the land for the facilities to the Employment Promotion Projects Corporation free of charge.

4. Organisation and Staff

(1) The organisation and the fixed number of the staff of the facilities shall be determined by the Government of the Ryukyu Islands in consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, taking into consideration such matters as the kind of vocational training offered, the number of trainees and training periods.

(2) The appointment and removal of the staff of the facilities, except for those referred to in paragraph 5 below, shall be made by the Government of the Ryukyu Islands in consultation with the Employment Promotion Projects Corporation.

5. Dispatch of the Members of the Employment Promotion Projects Corporation

(1) The Ministry of Labour, upon request from the Government of the Ryukyu Islands, shall take measures to have the Employment Promotion Projects Corporation dispatch members of the Corporation, who are required for the operation of the facilities.

(2) The selection of the members to be dispatched by the Employment Promotion Projects Corporation to the Government of the Ryukyu Islands shall be made through consultation between the Employment Promotion Projects Corporation and the Government of the Ryukyu Islands.

(3) The decisions regarding such matters as appointment, salaries and workmen's compensation concerning the members of the Employment Promotion Projects Corporation to be dispatched according to paragraphs 5 (1) and 5 (2) above shall be taken through consultation between the Employment Promotion Projects Corporation and the Government of the Ryukyu Islands.

6. Kind of Vocational Training and Business to be Conducted

(1) The facilities shall provide vocational training in accordance with the provisions of the Okinawan Vocational Training Law. The kind of vocational training and

business to be conducted by the facilities shall be as follows:

a. Vocational training of employees.

b. Vocational training of job-seekers.

c. Training of vocational training instructors.

d. Assistance to vocational trainings to be conducted by private industries.

e. Other necessary business concerning vocational trainings.

(2) The trades to be taught at the facilities and the fixed number of trainees shall be decided by the Government of the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation, taking into consideration such matters as the vocational training programs to be formulated according to the provisions of Article 4 of the Okinawan Vocational Training Law and the situation of job-seeking in Okinawa.

7. Collection of Fees

Fees for workshop practices and other charges to cover expenses required for vocational trainings to be collected from trainees shall be determined for each category the Ryukyu Islands through consultation with the Employment Promotion Projects Corporation.

8. Tax Exemption

The Government of the Ryukyu Islands shall take measures to exempt the Employment Promotion Projects Corporation from the following texes in Okinawa:

Income tax

Corporation tax

Automobile tax

City, town or village tax

Registration tax.

9. Notification concerning the Activities

The Government of the Ryukyu Islands shall inform the Employment Promotion Projects Corporation of the activities of the facilities every quarter of the business year.

10. Interpretation of the Memorandum and others

In case any doubts should arise concerning the interpretation of the provisions of this Memorandum or in case any necessity for making detailed arrangements concerning the matters provided for in the above paragraphs should arise, a settlement shall be sought through consultation between the Ministry of Labour and the Government of the Ryukyu Islands.

11. Validity of the Memorandum

The arrangements contained in this Memorandum shall

be complemented from the date when all of the following four parties have affixed their signatures and the signature on the part of the Government of the Ryukyu Islands has been approved by the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands.

Director-General
Vocational Training Bureau
Ministry of Labour, GOJ

, 19

Director-General
Special Area Liaison Bureau
Prime Minister's Office, GOJ

, 19

Director
General Affairs Bureau, GRI

, 19

Director
Labour Bureau, GRI

, 19

Approved on behalf of the High Commissioner
of the Ryukyu Islands by

H. Z. CONNER
Maj. AGC
Chief of Administration

Director
General Affairs Department, USCAR

, 19